長岡京市文化財調査報告書

第 71 冊

２０１８

長 岡 京 市 教 育 委 員 会

編 集　公益財団法人 長岡京市埋蔵文化財センター

序　　文

私たちの長岡京市は、豊かな水と緑に恵まれた良好な環境と大都市を結ぶ交通の利便性により発展してきたまちです。

古くは旧石器時代から人々が生活を営んだことがわかっており、特に７８４年に「長岡京」という当時の都が置かれた地として、全国的に知られています。

また、市内には史跡乙訓古墳群を構成する首長墓や、勝龍寺城などの城館跡、乙訓寺・長岡天満宮といった神社仏閣など、数多くの文化遺産が存在し、現代に至るまで豊かな歴史と文化を守り育んできました。

しかし、こうした遺跡は、まちの発展の一方でかつての姿が失われつつあります。本市では、これらの遺跡の調査・保護に力を入れるとともに普及・啓発に努め、地域全体で風土や文化遺産を守るまちづくりを進めています。

さて、本報告書は、平成 29 年度に長岡京市教育委員会が実施した発掘調査と詳細分布調査の成果をまとめたものです。

乙訓寺の発掘調査では、創建当時の伽藍配置などに関わる情報は得られませんでしたが、古墳時代の倉庫とみられる総柱建物や長岡京期の井戸、中世・近世の寺域を区画した溝が確認されました。出土遺物には各時代の土器のほか、乙訓寺で葺かれたであろう瓦も複数あり、乙訓寺や地域の歴史を知る上で貴重な成果が得られました。

詳細分布調査では、市域の約半分を占め市街地のほぼ全域を包括する長岡京跡やその他の遺跡に関する情報の蓄積が進んでいます。

最後になりましたが、発掘調査にあたり数々のご助力をいただきました土地所有者や地元協力者の方々、ご指導・ご助言をいただいた諸先生方並びに調査を担当していただいた公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センターなどの関係機関に深く感謝いたします。

本書が文化財保護の普及・啓発の一助となり、また地域学習の資料として広く活用いただければ幸いです。

平成 30 年３月

長岡京市教育委員会

教育長　　山　本　和　紀

凡　　例

1．本書は、長岡京市教育委員会が平成29年度に国庫補助事業として公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センターに事業を委託して実施した発掘調査および詳細分布調査に関する概要報告である。

2．調査対象地は、第1図および付表−1に表示した。

3．長岡京跡の調査次数は、右京域と左京域に分けて通算したものである。また、調査地区名は、前半が奈良文化財研究所の遺跡分類表示、後半が京都府教育委員会『埋蔵文化財発掘調査概報』（1977年）収録の旧大字小字名による地区割りと同地区内における調査回数を示す。

4．長岡京跡の条坊名称は、山中章「古代条坊制論」『考古学研究』第38巻第4号（1992年）の復原案に従った。

5．本書で使用する地形区分は、特に断らない限り「長岡京市域地形分類図」『長岡京市史』資料編一（1991年）によった。

6．本文の（注）に示した長岡京に関係する報告書のうち、使用頻度の高いものについては、『長岡京市埋蔵文化財発掘調査資料選』（九）公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センター（2018年）に従って略記した。

7．本書において使用している遺構番号は、長岡京跡に関する調査の場合、調査次数＋番号であるが、煩雑さを避けるため、調査次数を省略している。「SD01」の場合、調査次数を冠した「SD○○○○01」が正式な番号である。

8．本書で使用している方位と国土座標値は、旧座標系の第Ⅵ系によっている。

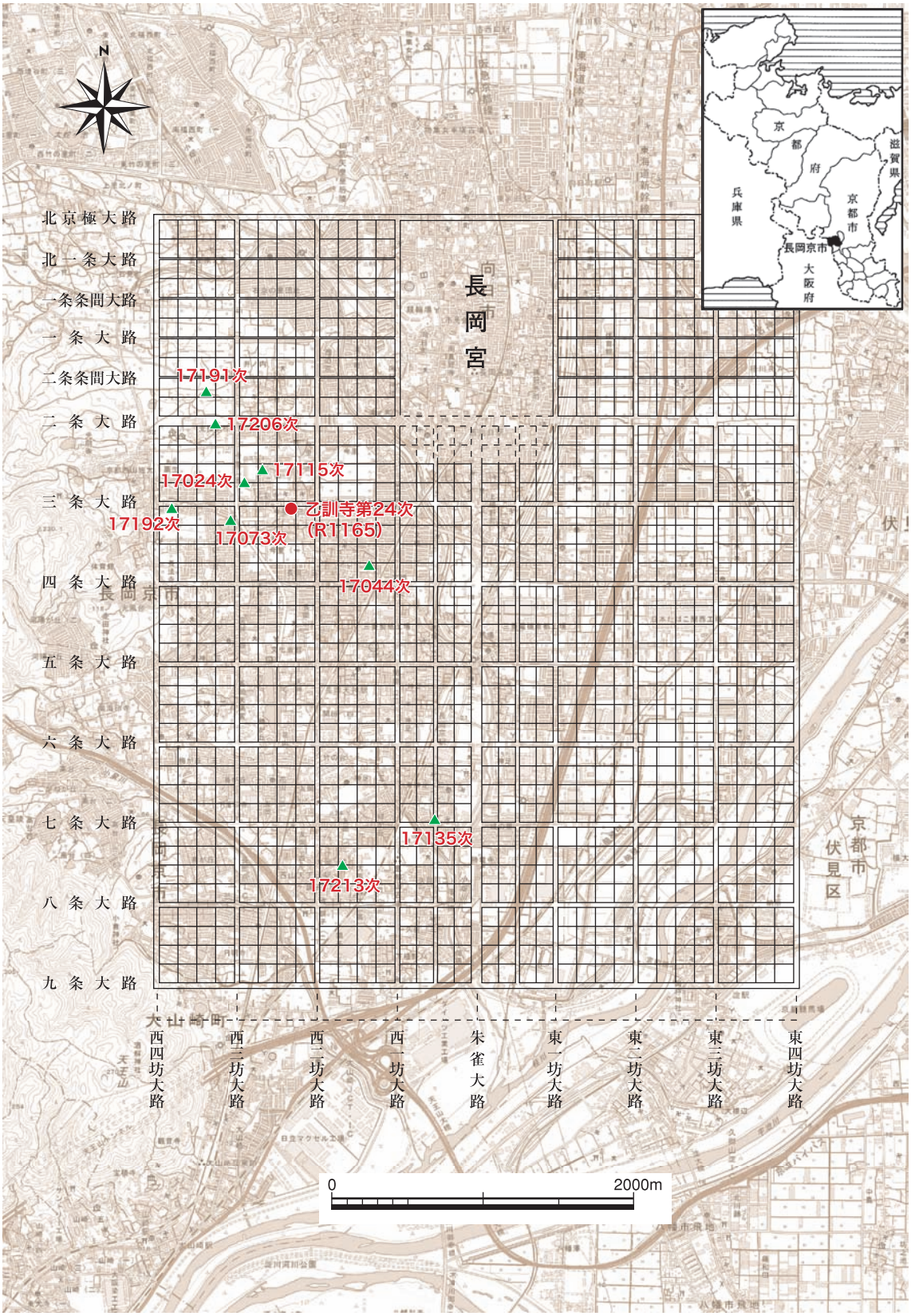
9．本書の挿図の土層名で〈 〉を付けて表示した記号は、『新版標準土色帳』（1997年版）のJIS表記法による土色名である。

10．遺物写真は、公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所に撮影を依頼した。

11．本書は、第1章を大髙義寛、第2章を山本輝雄が執筆し、全体の編集は技術補佐員・整理員の協力のもと山本・大髙が行った。

付表−1　本書報告調査地一覧表

調査次数	地区名	所在地	現地調査期間	調査面積	備考
乙訓寺第24次 長岡京跡右京 第1165次	7ANIHR−9	長岡京市今里三丁目14−7	2017年 9 月25日 〜 2017年11月24日	326㎡	今里遺跡
平成29年度 詳細分布調査	付表−5参照				



第１図　長岡京と調査地の位置（1/40000）

本　文　目　次

第１章　乙訓寺第 24 次調査概要
— 長岡京跡右京第 1165 次（7AN IHR–9 地区）調査 —
1　はじめに …… 1
2　調査経過 …… 2
3　検出遺構 …… 3
4　出土遺物 …… 12
5　ま と め …… 14

第２章　長岡京市内遺跡詳細分布調査概要
1　はじめに …… 19
2　調査概要 …… 19
3　主な調査成果 …… 20

図　版　目　次

乙訓寺第 24 次調査

図版１　調査区全景（北から）
図版２　（１）南拡張区全景（西から）　（２）北拡張区全景（西から）
図版３　（１）溝 SD25 全景（北西から）　（２）溝 SD25 遺物出土状況（北西から）
図版４　（１）掘立柱建物 SB51 全景（北西から）
（２）掘立柱建物 SB51 柱穴－１（P5・7・38－南西から、P41－西から）
図版５　掘立柱建物 SB51 柱穴－２（P8－西から、P9・11・14・60 ～ 62・65・72・73－南西から）
図版６　（１）井戸 SE47 土層堆積状況（西から）　（２）井戸 SE47 完掘状況（西から）
図版７　（１）井戸 SE68 土層堆積状況（北から）　（２）井戸 SE68 半截状況（北から）
図版８　（１）溝 SD01 検出状況（北から）　（２）溝 SD01 完掘状況（北から）
図版９　（１）溝 SD01 遺物出土状況（西から）
（２）溝 SD01・調査区西壁南端土層堆積状況（東から）
図版 10（１）溝 SD04 土層堆積状況（東から）　（２）溝 SD04 完掘状況（南東から）
図版 11（１）溝 SD53・落ち込み SX66 セクション断面（南から）
（２）溝 SD53 完掘状況（南から）
図版 12 出土遺物

挿　図　目　次

第 1 図　長岡京と調査地の位置（1/40000）…… iii

乙訓寺第 24 次調査

第 2 図　発掘調査地位置図（1/5000）…… 1
第 3 図　調査区検出遺構図（1/200）…… 4
第 4 図　調査区土層図（1/100）…… 5
第 5 図　溝 SD04 実測図（1/100）…… 6
第 6 図　溝 SD01 実測図（1/50）…… 7
第 7 図　井戸 SE47・68 実測図（1/50）…… 8
第 8 図　掘立柱建物 SB51 実測図（1/100）…… 9
第 9 図　掘立柱建物 SB51 柱穴実測図– 1（1/50）…… 10
第 10 図　掘立柱建物 SB51 柱穴実測図– 2（1/50）…… 11
第 11 図　溝 SD25 実測図（1/50）…… 12
第 12 図　出土遺物実測図（1/4）…… 13
第 13 図　乙訓寺第 2・24 次調査遺構平面複合図（1/300）…… 17

長岡京市内遺跡詳細分布調査

第 14 図　第 17024 次調査地位置図（1/5000）…… 21
第 15 図　第 17024 次調査地全景（北から）…… 21
第 16 図　第 17024 次調査断面略図（1/40）…… 21
第 17 図　第 17024 次調査断面（東から）…… 21
第 18 図　第 17044 次調査地位置図（1/5000）…… 22
第 19 図　第 17044 次調査地全景（南東から）…… 22
第 20 図　第 17044 次調査断面略図（1/40）…… 22
第 21 図　第 17044 次調査断面（東から）…… 22
第 22 図　第 17073 次調査地位置図（1/5000）…… 22
第 23 図　第 17073 次調査地全景（北西から）…… 22
第 24 図　第 17073 次調査断面略図（1/40）…… 22
第 25 図　第 17073 次調査平・断面（北から）…… 22
第 26 図　第 17115 次調査地位置図（1/5000）…… 23
第 27 図　第 17115 次調査地全景（北西から）…… 23
第 28 図　第 17115 次調査断面略図（1/80）…… 23

第 29 図　第 17115 次調査断面（東から） …… 23
第 30 図　第 17135 次調査地位置図（1/5000） …… 24
第 31 図　第 17135 次調査地全景（南東から） …… 24
第 32 図　第 17135 次調査断面略図（1/40） …… 24
第 33 図　第 17135 次調査断面（北から） …… 24
第 34 図　第 17191 次調査地位置図（1/5000） …… 25
第 35 図　第 17191 次調査地全景（北西から） …… 25
第 36 図　第 17191 次調査断面略図（1/60） …… 25
第 37 図　第 17191 次調査断面（南から） …… 25
第 38 図　第 17192 次調査地位置図（1/5000） …… 25
第 39 図　第 17192 次調査地全景（東から） …… 25
第 40 図　第 17192 次調査断面略図（1/40） …… 25
第 41 図　第 17192 次調査平・断面（南から） …… 25
第 42 図　第 17206 次調査地位置図（1/5000） …… 27
第 43 図　第 17206 次調査地全景（東から） …… 27
第 44 図　第 17206 次調査断面略図（1/60） …… 27
第 45 図　第 17206 次調査平面略図（1/50） …… 27
第 46 図　第 17206 次調査断面（南から） …… 27
第 47 図　第 17206 次調査断面（北東から） …… 27
第 48 図　第 17206 次調査平面（南東から） …… 27
第 49 図　第 17206 次調査小穴群（東から） …… 27
第 50 図　第 17213 次調査地位置図（1/5000） …… 28
第 51 図　第 17213 次調査断面（東から） …… 28
第 52 図　出土遺物実測図（1/4） …… 29
第 53 図　出土遺物 …… 29

付　表　目　次

付表－1　本書報告調査地一覧表 …… ii
付表－2　乙訓寺調査次数一覧表 …… 3
付表－3　出土遺物観察表 …… 18
付表－4　遺跡別詳細分布調査件数一覧表 …… 20
付表－5　長岡京市内遺跡詳細分布調査一覧表 …… 30
付表－6　報告書抄録 …… 39

第１章　乙訓寺第 24 次調査概要

― 長岡京跡右京第 1165 次（7AN IHR−9 地区）調査 ―

１　はじめに

1　本報告は、平成 29（2017）年 9 月 25 日から 11 月 24 日まで、長岡京市今里三丁目 14−7 において実施した、乙訓寺第 24 次調査（長岡京跡右京第 1165 次調査）に関するものである。

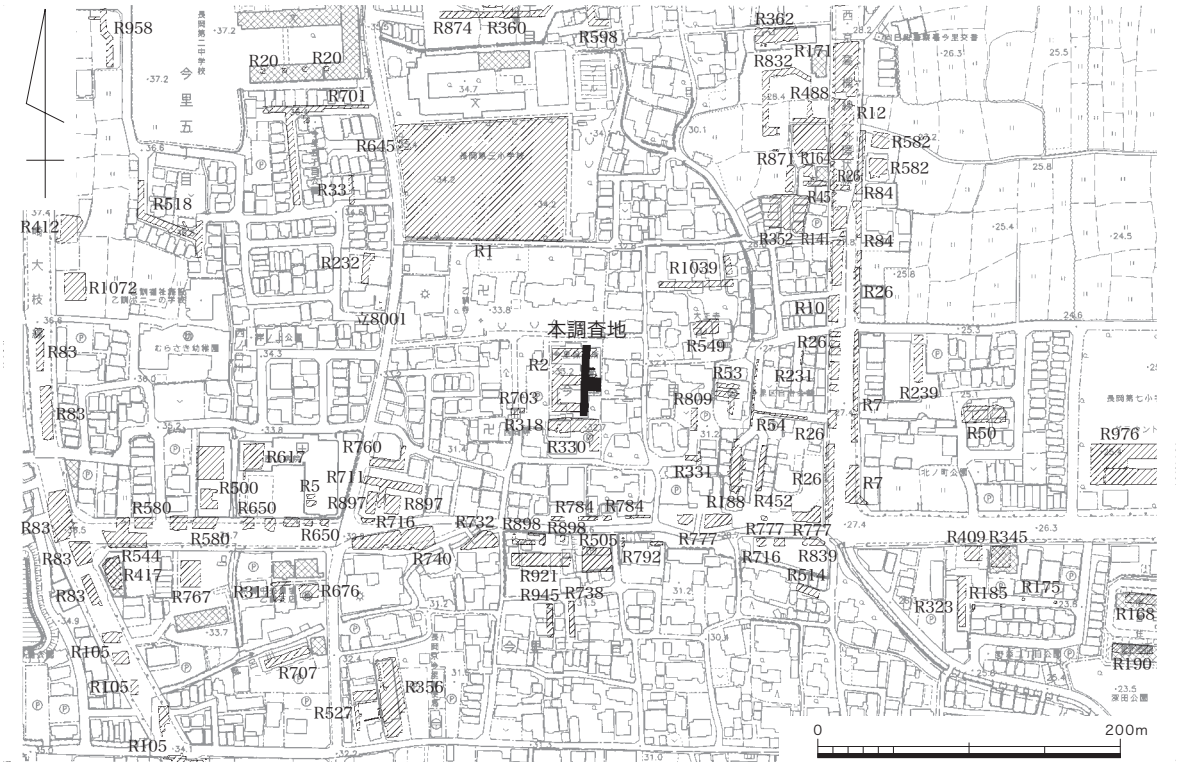
2　調査は、古代乙訓寺の伽藍配置や関連施設、長岡京造営との関わりについての情報を得る目的で実施したもので、調査面積は約 326㎡を測る。

3　調査地は、長岡京跡右京四条三坊八町および三条大路推定地と旧石器時代から近世の複合遺跡である今里遺跡にもあたるため、これらに関わる遺構・遺物の確認も合わせて行った。

4　発掘調査は、平成 29 年度国庫補助事業として長岡京市教育委員会から委託を受けた公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センターが実施したもので、現地調査は大髙義寛が担当した。

5　発掘調査にあたっては、乙訓寺関係者各位をはじめ、周辺地権者の方々や関係機関に種々のご理解とご協力を賜った。

6　本報告の編集と執筆は大髙が行った。



第２図　発掘調査地位置図（1/5000）

2　調査経過

調査地は、西山丘陵裾部から東へ向かって傾斜する緩扇状地の先端に立地し、地形分類上は低位段丘Ⅰにあたる。調査地から約100 m西には大正寺川が南流し、それ以東は小畑川の氾濫原が広がる。また、約100 m北には東西方向の開析谷が埋没し、東から南にかけても南東方向にやや膨らむ開析谷が形成されている。なお、調査地付近の標高は約33.5 mであった。

過去の乙訓寺に関する発掘調査（付表−２参照）では、長岡京市立長岡第三小学校建設にともなう乙訓寺第１次（長岡京跡右京第１次）調査において回廊を付設する講堂跡や瓦窯、僧坊跡とみられる掘立柱建物跡などが検出された[注1]。しかし、以降の調査では主要伽藍に関する遺構の検出事例はなく、乙訓寺第２次（右京第２次）調査で検出した時期不明の溝[2]や第７次（右京第318次）および第11次（右京第703次）調査で検出した中世の溝が寺域を区画したとみられるにとどまる[3][4]。ただし、出土遺物や表採資料では多くの古代瓦が発見されており、７世紀後半（白鳳期）の創建瓦、８世紀末（長岡京期）の修復瓦、９世紀以降の修復瓦などの分類がなされている[5]。

今回の調査は、乙訓寺境内の駐車場で旧今里保育所跡地を調査地点とした。当該地点は、乙訓寺現境内の南東隅にあたり、南門の東延長線上を含む。南側の第７次調査地より一段高くなっており、乙訓寺南限に関する遺構の残存が見込まれた。また、当該地点周辺は江戸〜明治時代の絵図には「薮」「境内薮林」「境内山林」などと記されているが、中には「大聖院旧跡」や「大聖院跡」と記すものもあり、かつて塔頭が建てられていたことがわかる[6]。ちなみに、同絵図において「大聖院」は境内参道を隔てた北側、現在の客殿・庫裏などを中心とする本坊南辺にその名がみえ、いずれかの段階で移転したものと考えられる。なお、本調査区は第２次調査区と一部重複が想定されたが、調査年代が古く詳細な位置が不明確になっている第２次調査区域の再確定も視野に入れたものであった。

調査はまず東西５m × 南北47 mの調査区を設定して行った。さらにその後、調査の進展とともに遺構の分布範囲と寺域東限を確認するため、調査区中央部東側に南北１m × 東西４mの北拡張区と南北９m × 東西８mの南拡張区を設け調査を継続した。

現地調査は、平成29年９月25日から実施した。11月２日に関係者説明会を開催し、11月20日から埋め戻しを開始した。機材撤去等すべての作業が終了したのは11月24日であった。

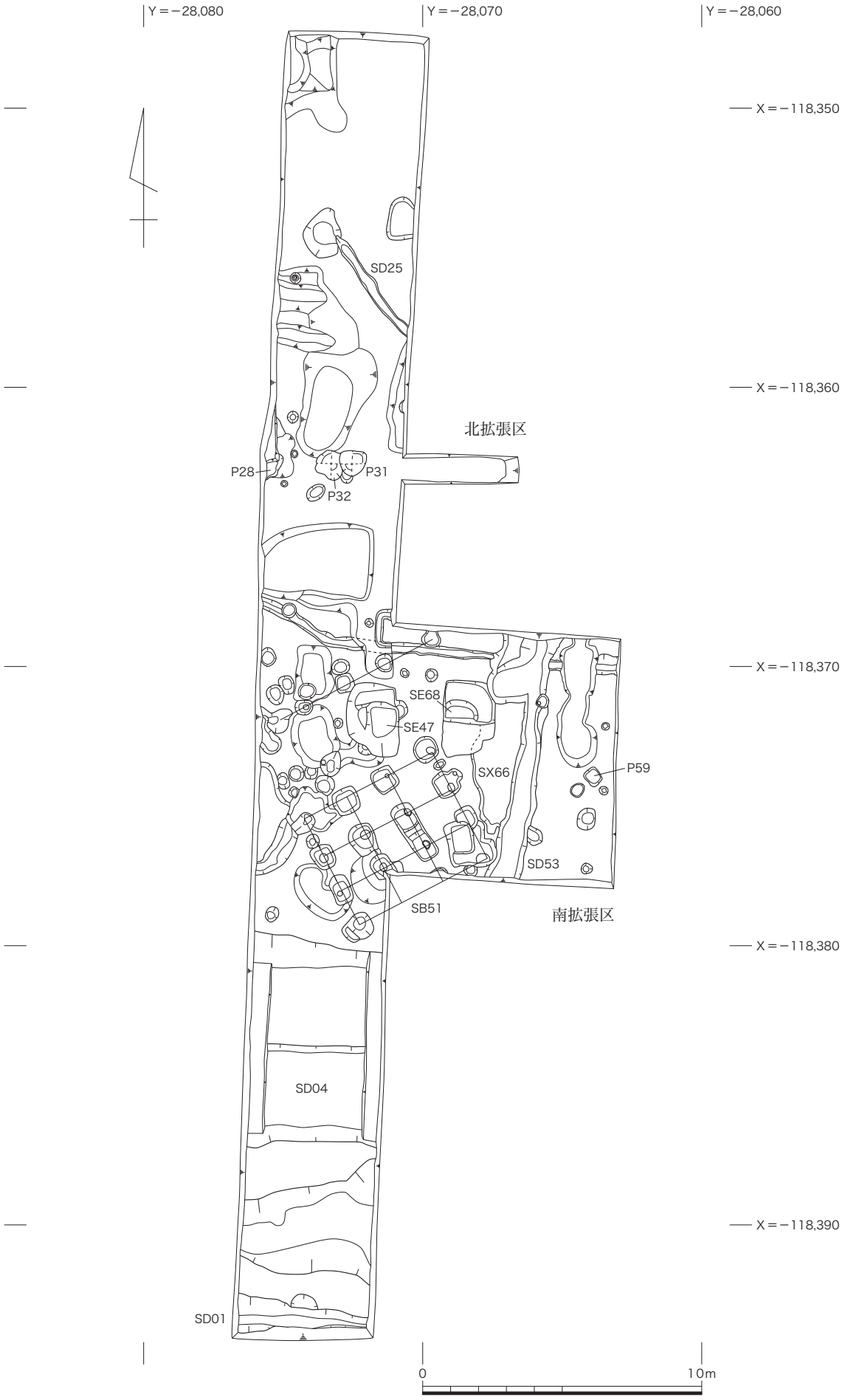
3　検出遺構

基本層序（第４図）　地表面から順に、現況の駐車場にともなう砕石舗装層が約0.1 m、盛土層が約0.3 m、薮土層（第２〜８・14〜23層）が約0.3 mであり、地表面から約0.7 mで赤褐色砂質シルト層の地山面に至る。ただし、調査区の北半部では地表面から約0.8 mまで撹乱がおよぶ。撹乱は現代の瓦礫を含むものが多いが、多量の近世瓦を含む部分もみられた。また、調査区中央部においても地山面より深くまで達する撹乱が点在していたが、撹乱の影響を受けていない地山面や撹乱坑底面で遺構の検出が可能であった。

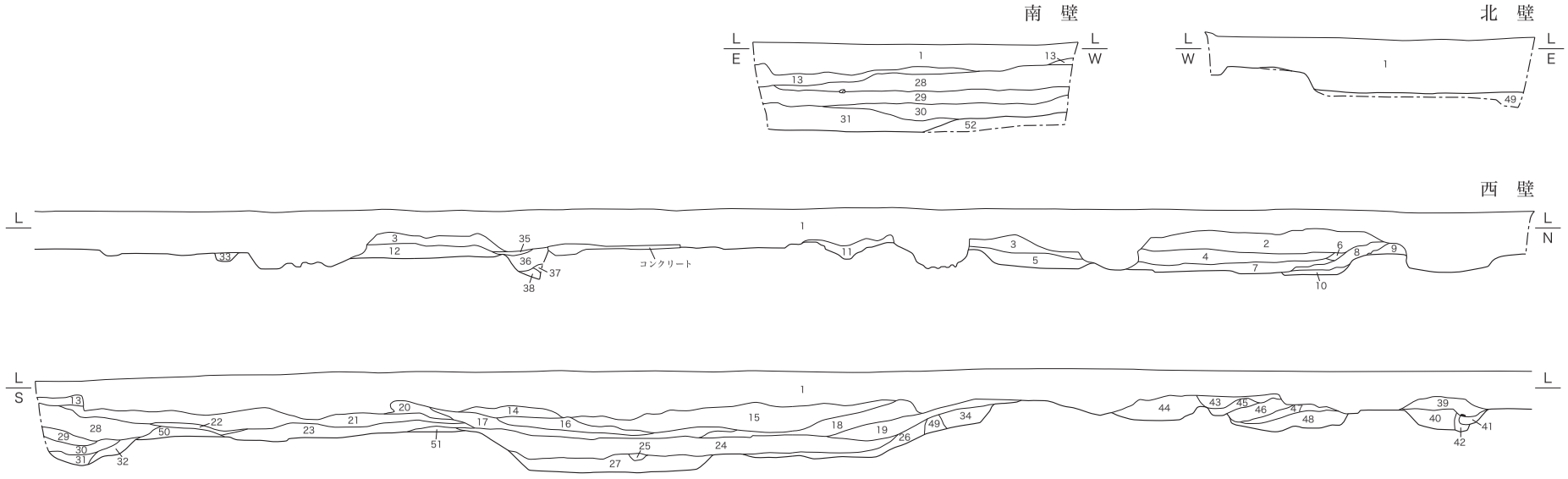
付表−２　乙訓寺調査次数一覧表

乙訓寺次数	長岡京右京次数	調査年次	乙訓寺関連遺構	その他検出遺構	出土遺物	報告書等
1	1	1966（S41）	講堂跡（附回廊）、僧坊？跡、瓦窯	−	瓦、弥生土器	府概 1967
2	2	1969（S44）	東西溝、南北溝	溝、瓦堆積、弥生周溝墓、小穴	弥生土器、土師器、須恵器、瓦	未報告
3	53	1980（S55）	−	礫敷き遺構、弥生旧河道	弥生土器	市報９冊
4	54	1980（S55）	−	弥生旧河道	弥生土器	市報９冊
5	186	1985（S60）	−	溝、掘立柱建物	弥生土器、土師器、須恵器	セ年 S59 略
6	232	1986（S61）	−	溝、土坑、旧河道	弥生土器、土師器、須恵器、瓦器、瓦	市報 18 冊
7	318	1988（S63）	東西溝	土坑、小穴	弥生土器、土師器、須恵器、陶器、磁器、瓦器、石製品（石釧）、瓦	市報 22 冊
8	330	1989（H１）	−	溝、土坑、井戸、小穴、土器溜まり、集石遺構	土師器、須恵器、瓦器、陶器、磁器、瓦	市報 24 冊
9	549	1996（H８）	−	溝、土坑、小穴	土師器、須恵器、瓦器、陶器、磁器、瓦、石臼、銭貨、鉄器	市報 36 冊
10	645	1999（H11）	−	−	−	セ年 H11
11	703	2001（H13）	東西溝、布堀遺構	溝、土坑、柱穴、小穴	弥生土器、土師器、須恵器、緑釉陶器、瓦器陶器、磁器、埴輪、瓦、銭貨、鉄製品、石製品	市報 43 冊
12	711	2001（H13）	−	溝、土坑、竪穴建物、小穴	弥生土器、土師器、須恵器、瓦器、瓦、石製品、土製品	市報 43 冊
13	716	2001（H13）	−	土坑、竪穴建物、小穴	弥生土器、土師器、埴輪	セ報 23 集
14	732	2002（H14）	−	土坑、小穴、旧流路	土師器、須恵器、瓦器、陶器、磁器	セ報 27 集
15	740	2002（H14）	−	溝、土坑、井戸、小穴	土師器、須恵器、瓦器、陶器、緑釉陶器、磁器、瓦、土製品、鉄製品、石製品、銭貨	セ報 27 集
16	760	2003（H15）	−	溝、土坑、井戸、石組み遺構、小穴	弥生土器、土師器、須恵器、瓦器、埴輪、瓦、木製品、石製品、銭貨	セ年 H14
17	777	2003（H15）	−	土坑、掘立柱建物、流路、小穴	弥生土器、土師器、須恵器、緑釉陶器、瓦、陶器、磁器、木製品、石器、埴輪	セ報 37 集
18	784	2003（H15）	−	溝、土坑、流路、石列、石垣	弥生土器、土師器、須恵器、瓦器、石器、木製品	セ報 37 集
19	792	2003（H15）	−	−	陶器	セ報 37 集
20	809	2004（H16）	−	溝、井戸	土師器、瓦器、陶器、石製品	セ年 H16
21	869	2006（H18）	瓦窯	−	土師器、陶器、瓦	セ年 H17
22	897	2007（H19）	−	溝、土坑、柵列、竪穴建物、小穴	弥生土器、土師器、瓦器、陶器、石器、銭貨	セ年 H19
23	1039	2012（H24）	−	土坑、井戸、小穴	土師器、須恵器、瓦器、緑釉陶器、陶器、磁器、瓦	セ年 H23
24	1165	2017（H29）	東西溝、南北溝	溝、土坑、井戸、掘立柱建物、小穴	土師器、須恵器、瓦器、陶器、瓦	本書

※ 報告書等に関しては、以下の凡例に従って略記した。「京都府概報○：府概○」、「長岡京市報告書 第○冊：市報○冊」、「長岡京市センター報告書 第○集：セ報○集」、「長岡京市センター年報 ○年度：セ年○」



第３図　調査区検出遺構図（1/200）



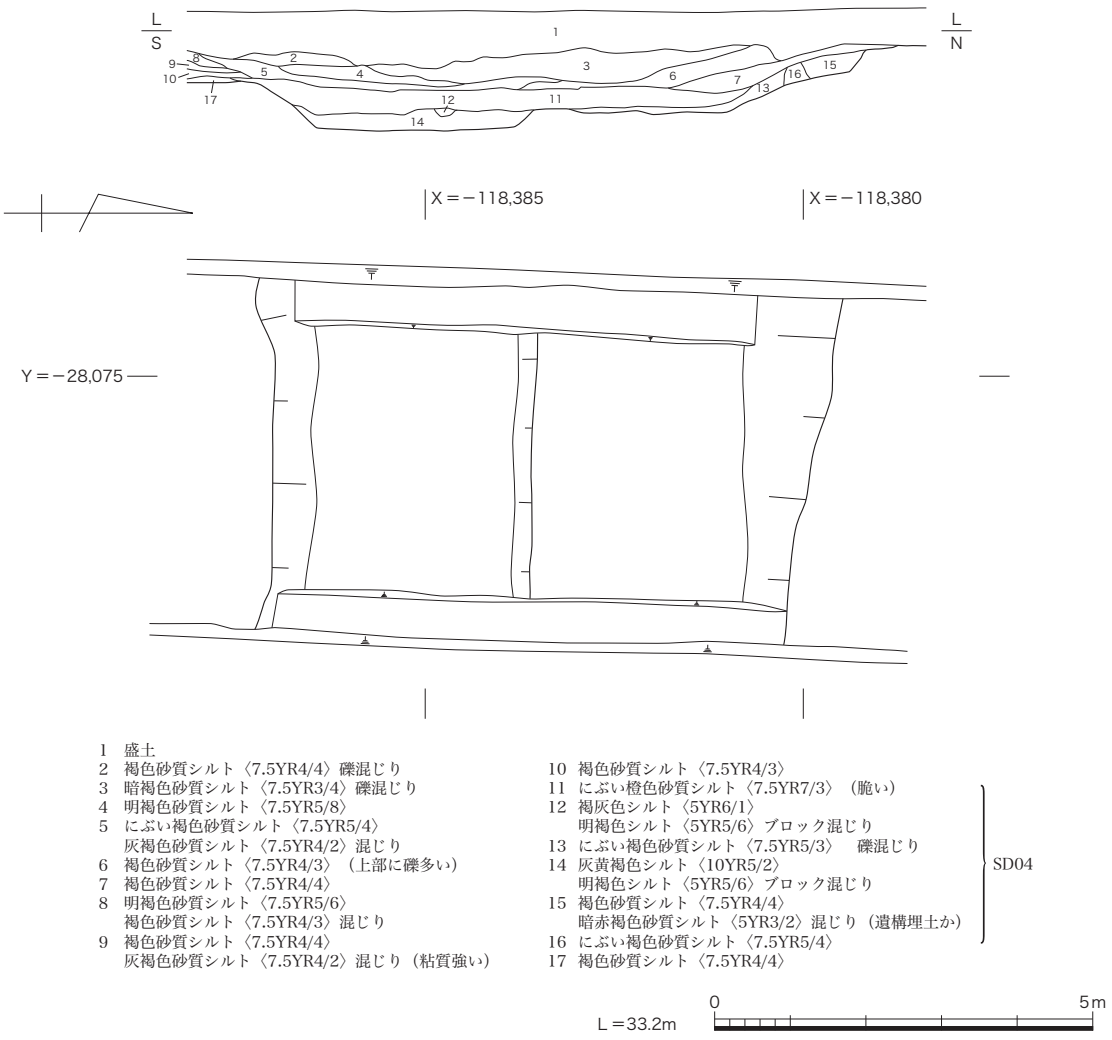
1　盛土
2　黒褐色砂質シルト〈7.5YR3/3〉
3　褐色砂質シルト〈7.5YR4/3〉
4　灰褐色砂質シルト〈7.5YR4/2〉礫混じり
5　にぶい褐色砂質シルト〈7.5YR5/3〉にぶい赤褐色砂質シルト〈5YR4/4〉混じり
6　暗褐色砂質シルト〈7.5YR3/4〉
7　褐灰色シルト〈7.5YR5/1〉
8　灰褐色砂質シルト〈7.5YR5/2〉礫混じり
9　褐色シルト〈7.5YR4/3〉
10　褐灰色砂質シルト〈7.5YR4/1〉礫混じり
11　灰褐色砂質シルト〈7.5YR4/2〉
12　にぶい褐色砂質シルト〈7.5YR5/3〉礫混じり
13　暗褐色砂質シルト〈7.5YR3/3〉（粘質強い）
14　褐色砂質シルト〈7.5YR4/4〉礫混じり
15　暗褐色砂質シルト〈7.5YR3/4〉礫混じり
16　明褐色砂質シルト〈7.5YR5/8〉
17　にぶい褐色砂質シルト〈7.5YR5/4〉灰褐色砂質シルト〈7.5YR4/2〉混じり
18　褐色砂質シルト〈7.5YR4/3〉（上部に礫多い）
19　褐色砂質シルト〈7.5YR4/4〉
20　明褐色砂質シルト〈7.5YR5/6〉褐色砂質シルト〈7.5YR4/3〉混じり
21　褐色砂質シルト〈7.5YR4/4〉灰褐色砂質シルト〈7.5YR4/2〉混じり（粘質強い）
22　灰褐色砂質シルト〈7.5YR4/2〉
23　褐色砂質シルト〈7.5YR4/3〉
24　にぶい橙色砂質シルト〈7.5YR7/3〉（脆い）
25　褐灰色シルト〈5YR6/1〉明褐色シルト〈5YR5/6〉ブロック混じり
26　にぶい褐色砂質シルト〈7.5YR5/3〉礫混じり
27　灰黄褐色シルト〈10YR5/2〉明褐色シルト〈5YR5/6〉ブロック混じり
} SD04
28　橙色砂質シルト〈7.5YR6/8〉灰褐色砂質シルト〈5YR4/2〉混じり（粘質強い）
29　橙色砂質シルト〈7.5YR7/6〉にぶい褐色砂質シルト〈7.5YR5/3〉混じり（粘質強い）
30　にぶい褐色シルト〈7.5YR5/3〉
31　褐色シルト〈10YR4/6〉
32　明褐色シルト〈7.5YR5/6〉
} SD01
33　褐灰色砂質シルト〈5YR4/1〉
34　褐色砂質シルト〈7.5YR4/4〉暗赤褐色砂質シルト〈5YR3/2〉混じり －遺構埋土か
35　灰褐色砂質シルト〈7.5YR4/2〉
36　褐色砂質シルト〈7.5YR4/4〉暗褐色砂質シルト〈7.5YR3/3〉ブロック混じり
37　褐灰色砂質シルト〈10YR6/1〉
38　褐色砂質シルト〈7.5YR4/3〉黒褐色砂質シルト〈7.5YR3/2〉ブロック混じり
} P28
39　暗赤褐色砂質シルト〈5YR3/2〉
40　褐色砂質シルト〈7.5YR4/4〉暗赤褐色砂質シルト〈5YR3/2〉混じり
41　黄褐色砂質シルト〈10YR5/8〉褐色シルト〈10YR4/6〉混じり
42　暗褐色砂質シルト〈7.5YR3/4〉－根痕か
43　暗赤褐色砂質シルト〈5YR3/2〉
44　にぶい赤褐色砂質シルト〈5YR4/4〉暗赤褐色砂質シルト〈5YR3/2〉混じり
45　褐色砂質シルト〈7.5YR4/4〉礫混じり
46　暗赤褐色砂質シルト〈5YR3/2〉巨礫混じり
47　褐色砂質シルト〈7.5YR4/4〉暗赤褐色砂質シルト〈5YR3/2〉混じり
48　明褐色砂質シルト〈7.5YR5/8〉褐色砂質シルト〈7.5YR4/4〉混じり　礫混じり
49　にぶい褐色砂質シルト〈7.5YR5/4〉
50　橙色砂質シルト〈7.5YR6/6〉
51　褐色砂質シルト〈7.5YR4/4〉
52　にぶい黄橙色粘土〈10YR6/4〉 地山

第4図　調査区土層図（1/100）

近世の遺構

溝 SD04（第５図）　調査区南部で検出した東西方向の溝である。幅約 7.5 m、深さ約 0.7 ～ 0.8 mを測る。北半部に幅約 2.7 mの平坦面が形成され、南半部が一段下がる。埋土は概ねにぶい橙色砂質シルト層（第 11 層）と灰黄褐色シルト層（第 14 層）に分かれる。にぶい橙色砂質シルト層から陶器茶碗１点が出土したほか、いずれの層からも土師器、須恵器、瓦器、瓦質土器、瓦などの小片が出土した。埋没時期は近世以降とみられるが、近世以前から機能していたか、先行する溝が存在していた可能性がある。東西の方角に乗っており、機能時には乙訓寺南限に関わる区画溝としての性格を有していたものと考えられる。

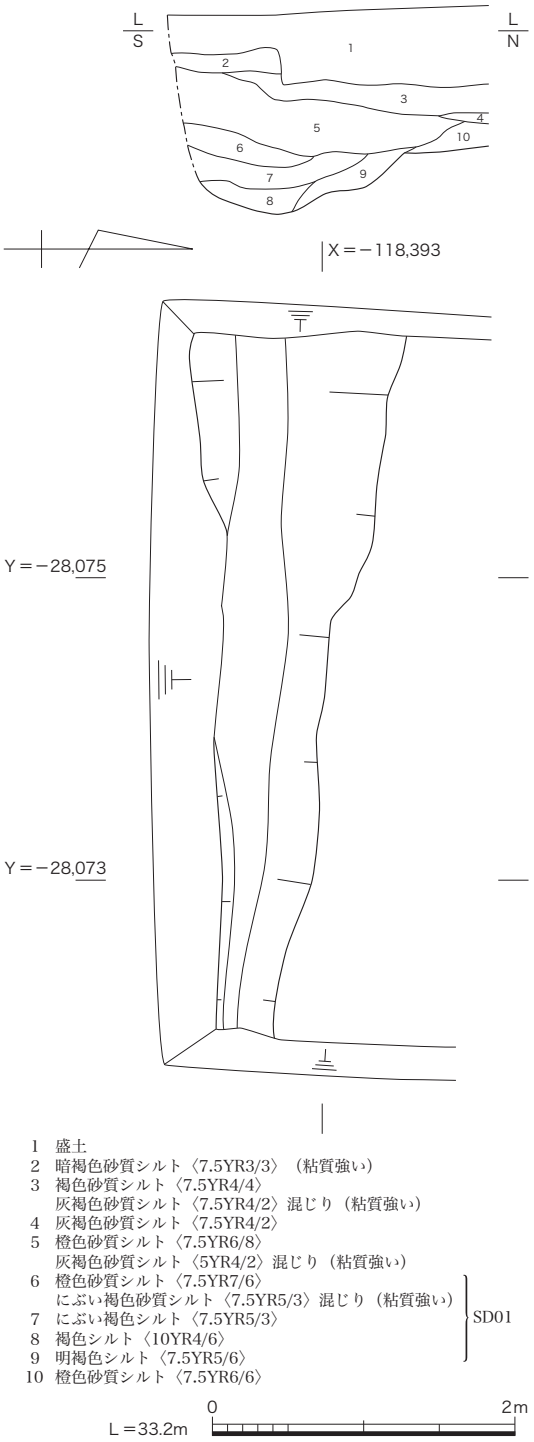
溝 SD53　南拡張区で検出した南北方向の溝である。幅約 1.2 m～ 2.0 m、深さ約 0.4 mを測り、北を約 10° 東へ振る。埋土は概ね灰褐色砂質シルトで、土師器、須恵器、瓦質土器、瓦の小片のほか陶器小片が１点出土した。ただし、当該遺構は部分的に第２次調査で検出されており、その埋め戻しの際に新しい遺物が混入した可能性がある。その場合、この遺構の時期が中世にまで遡ることも考えられる。



第５図　溝 SD04 実測図（1/100）

中世の遺構

溝 SD01（第６図）　調査区南端で検出した東西方向の溝である。南半が調査区外にあるため全容は不明であるが、最大検出幅 1.2 m、深さ約 0.5 mを測る。埋土は上部から橙色砂質シルト（第６層）、にぶい褐色シルト（第７層）、褐色シルト（第８層）、明褐色シルト（第９層）で、褐色シルト層より三重弧文軒平瓦片と均等唐草文軒平瓦片が出土した。また、溝全体からは土師器、須恵器、瓦器などの小片が出土した。この遺構は第 11 次（右京第 703 次）調査で検出された東西溝の東延長線上に位置し、第２次調査で検出された東西溝と同じ遺構であると推定される。ただし、調査後に埋め戻しを行ったような痕跡はなく、近世以降の遺物も出土しなかった。第 11 次調査は平成 13（2001）年に乙訓寺南門（表門、赤門、四足門、四脚門とも）の解体修理に伴って実施されたもので、元禄年間の再建に先行する南門の存在をうかがわせる布掘遺構が検出されている。報文中では東西溝を鎌倉時代、布掘遺構を室町時代としており、この SD01 は中世期の乙訓寺南限を示すものと考えられる。[7]



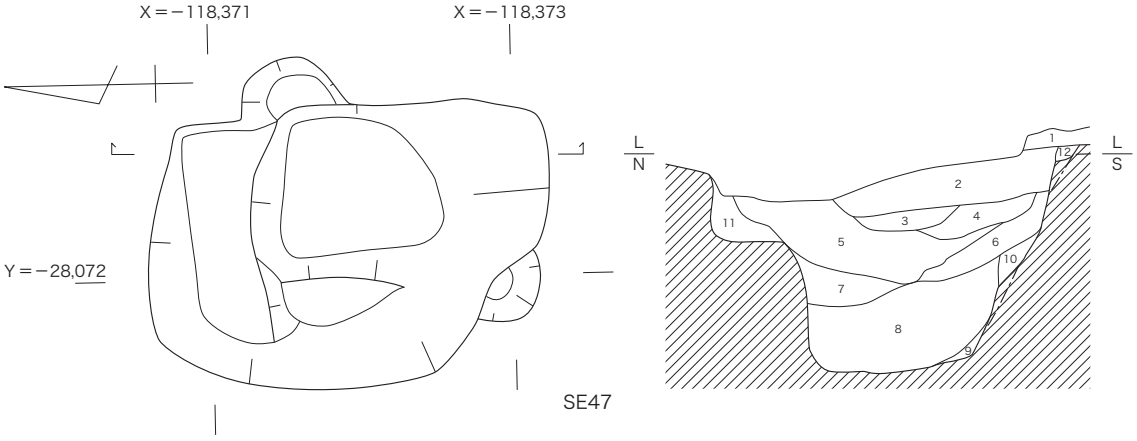
第６図　溝 SD01 実測図（1/50）

長岡京期の遺構

井戸 SE47（第７図）　調査区中央部で検出した井戸である。東西約 1.8 m、南北約 2.5 m の方形を呈し、深さ約 1.4 mを測る。北辺部と西辺部が階段状に掘り下がり、底面の規模は一辺約 1.0 mであった。埋土中より土師器、須恵器、瓦の小片が少量出土した。

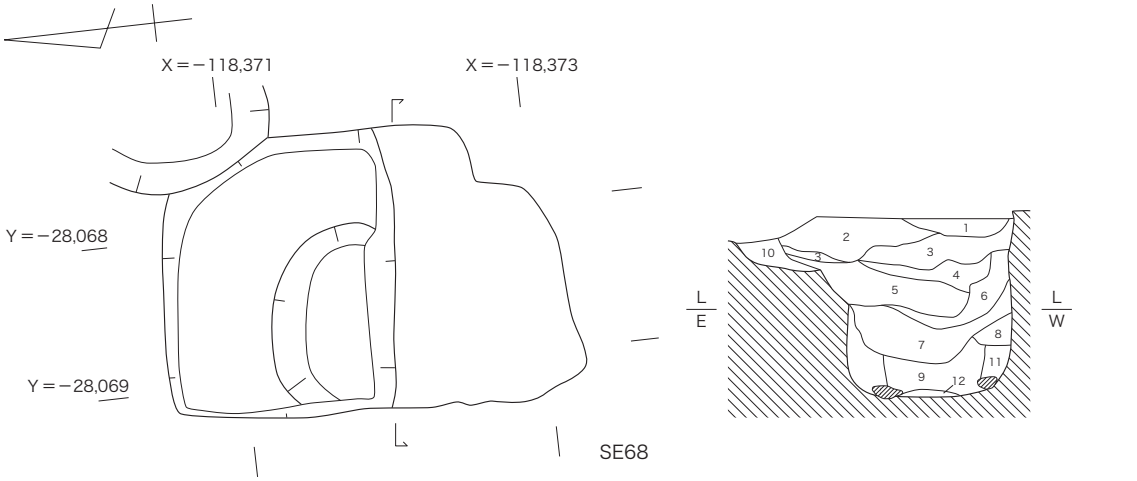
井戸 SE68（第７図）　南拡張区で検出した井戸である。東西約 1.8 m、南北約 2.5 mの方形を呈し、深さ約 1.2 mを測る。北辺部が一段掘り下がり、底面の東西幅は約 1.0 mであった。規模としては SE47 とほぼ同じである。保存のため、北側の半截のみの調査とした。埋土中より土師器と瓦の小片が出土した。

いずれの遺構も出土遺物が少なく時期の特定は困難であるが、双方より長岡京期の土師器皿小



1　灰褐色砂質シルト〈7.5YR4/2〉
2　明褐色砂質シルト〈7.5YR5/6〉
　褐色砂質シルト〈7.5YR4/3〉混じり　礫混じり
3　暗赤褐色砂質シルト〈5YR3/2〉
4　褐色砂質シルト〈7.5YR4/3〉
　明褐色砂質シルト〈7.5YR5/8〉混じり
5　明褐色砂質シルト〈7.5YR5/6〉
　暗褐色砂質シルト〈7.5YR3/3〉ブロック混じり　礫混じり
6　灰褐色砂質シルト〈5YR4/2〉
　明褐色砂質シルト〈7.5YR5/6〉ブロック（粘質強い）
7　明褐色砂質シルト〈7.5YR5/6〉
　褐色砂質シルト〈7.5YR4/3〉ブロック混じり（粘質強い）
8　褐色砂質シルト〈7.5YR4/3〉
　黄褐色砂質シルト〈10YR5/6〉混じり　礫混じり（粘質強い）
9　明褐色シルト〈7.5YR5/6〉
　灰褐色シルト〈7.5YR4/2〉混じり
10　明褐色砂質シルト〈7.5YR5/8〉
　黄褐色砂質シルト〈10YR5/6〉混じり
11　灰褐色シルト質砂礫〈7.5YR4/2〉
　灰褐色シルト〈7.5YR4/2〉混じり
12　にぶい褐色砂質シルト〈7.5YR5/4〉

L＝32.8m　0　2m



1　灰褐色砂質シルト〈5YR4/2〉
　橙色砂質シルト〈7.5YR6/6〉ブロック混じり
2　灰褐色砂質シルト〈7.5YR4/2〉
　にぶい褐色砂質シルト〈7.5YR5/4〉ブロック混じり
3　明黄褐色砂質シルト〈10YR6/6〉
　暗褐色砂質シルト〈7.5YR3/3〉混じり
4　暗褐色砂質シルト〈7.5YR3/3〉
　褐色砂質シルト〈7.5YR4/4〉混じり
5　灰褐色砂質シルト〈5YR4/2〉
　暗褐色砂質シルト〈7.5YR3/4〉混じり　礫混じり
6　灰褐色砂質シルト〈7.5YR4/2〉
7　褐色砂質シルト〈7.5YR4/3〉
　暗褐色砂質シルト〈7.5YR3/3〉ブロック混じり　礫混じり
8　暗褐色シルト質砂礫〈7.5YR3/3〉
9　暗褐色砂質シルト〈7.5YR3/3〉
　明黄褐色砂質シルト〈10YR6/6〉混じり（粘質強い）
10　灰褐色砂質シルト〈7.5YR4/2〉礫混じり（粘質強い）
11　黒褐色砂質シルト〈7.5YR2/2〉礫混じり
12　黒褐色シルト質砂礫〈10YR3/2〉

L＝33.2m　0　2m

第７図　井戸 SE47・68 実測図（1/50）

片が出土し、周辺遺構とは異なり瓦器や近世瓦が出土しないことから、当該時期と判断した。ただ、類似する遺構が近接して設置された理由については、今後検討していく必要があろう。

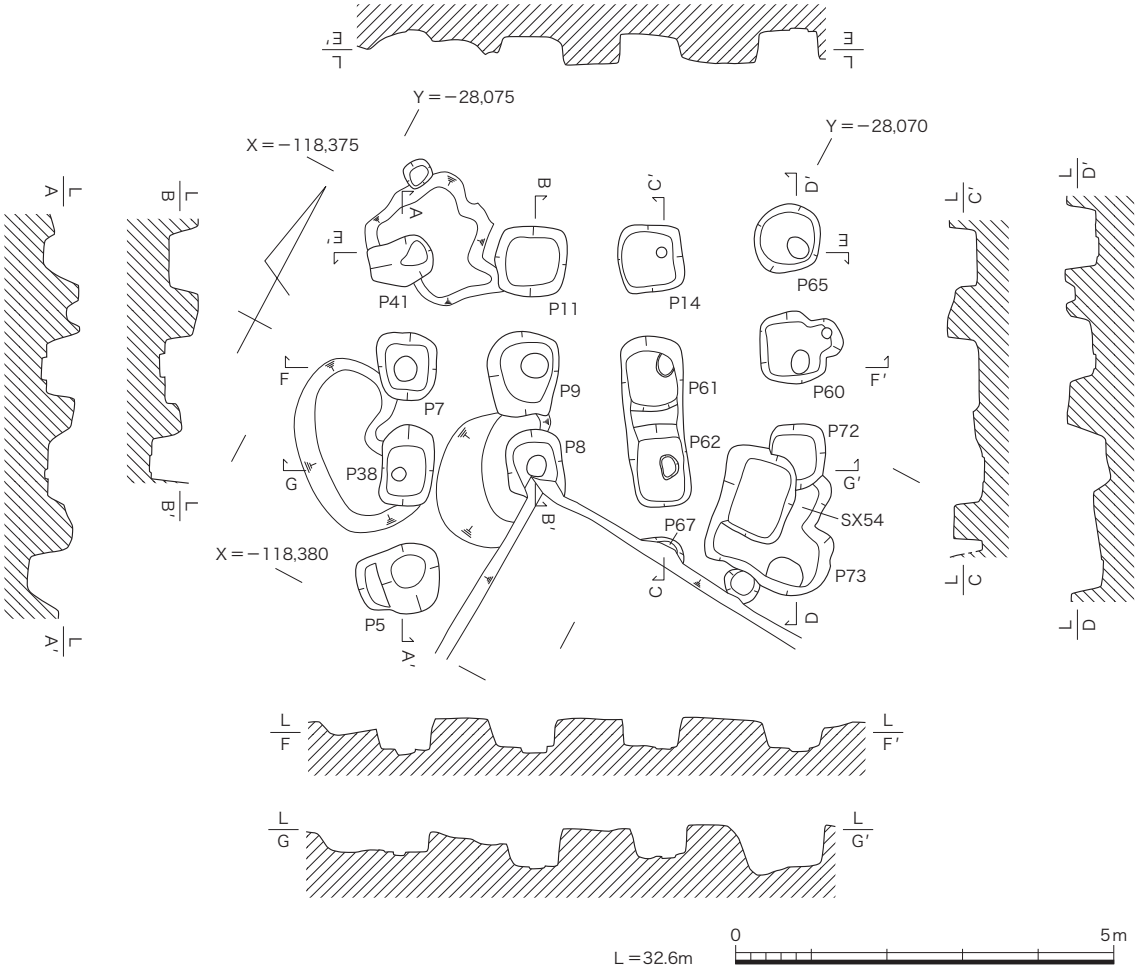
小穴 P28　調査区北半西壁沿いで検出した小穴である。コンクリート基礎による撹乱と、西半が調査区外にあるため全容は不明であるが、直径 0.5 m以上、深さ約 0.5 mを測る。埋土は概ね褐色砂質シルトで、長岡京期の土師器皿小片が出土した。

古墳時代の遺構

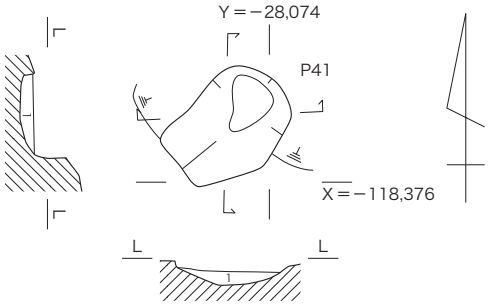
掘立柱建物 SB51（第８～10 図）　調査区中央部で検出した北を西に約 28° 振る総柱の掘立柱建物である。検出した柱間は３間×３間であるが、南東方向の調査区外に広がる可能性もある。柱間距離は北西–南東方向が約 1.7 mで北東–南西方向が約 1.5 mである。P62 と P72 より古墳時代の杯蓋小片が出土したほかは、いずれの柱穴から出土した遺物も土師器や須恵器の細片であった。新しい遺物が混じらないことから当該期の遺構とした。なお、検出した 15 基の柱穴のうち、P60 の埋土のみブロックの混じる褐灰色シルトの単層であった。平面形状が第２次調査第 2EWトレンチの東半で検出されている小穴と酷似しており、第２次調査終了時に埋め戻された遺構とみられる。

溝 SD25（第 11 図）　調査区北半で検出した北西–南東方向の溝である。幅約 0.3 m、深さ約 0.2 mを測り、北を約 36° 西に振る。埋土は褐灰色砂質シルトの単層であった。溝底部より布留式とみられる甕が出土した。

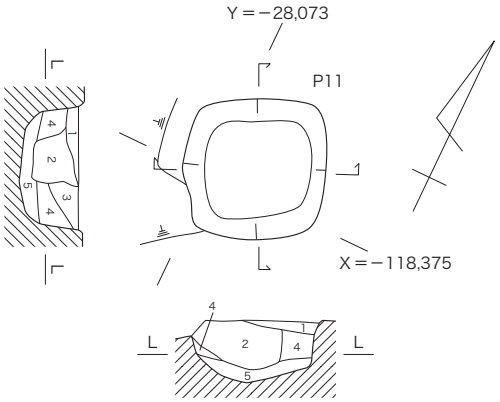
小穴 P59　南拡張区東端で検出した小穴である。横幅約 0.4 m、縦幅約 0.5 mの隅円方形を呈し、深さ約 0.2 mを測る。埋土は上部から明黄褐色砂質シルト、灰褐色砂質シルトで、須恵器の杯身小片が出土した。



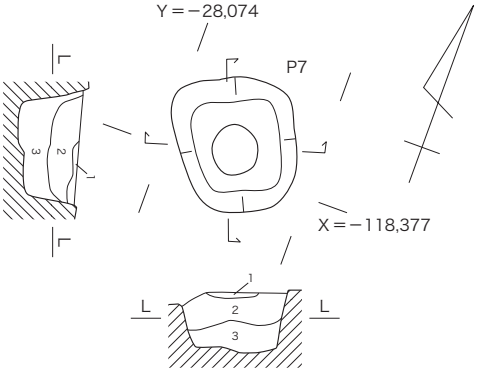
第８図　掘立柱建物 SB51 実測図（1/100）



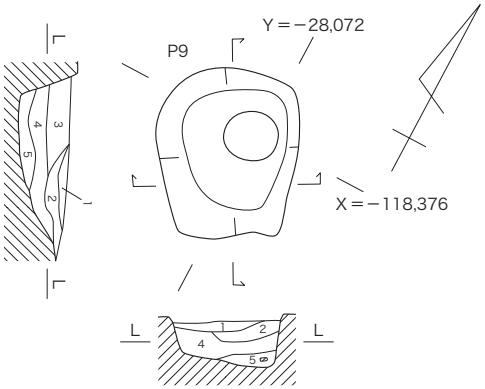
1　灰褐色砂質シルト〈5YR4/2〉
　にぶい褐色砂質シルト〈7.5YR5/3〉混じり



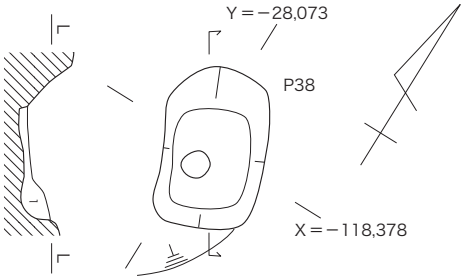
1　灰褐色砂質シルト〈7.5YR4/2〉
2　褐色砂質シルト〈10YR4/6〉
　暗褐色砂質シルト〈7.5YR3/3〉混じり
3　にぶい黄褐色砂質シルト〈10YR4/3〉
4　暗褐色砂質シルト〈7.5YR3/3〉
　褐色砂質シルト〈10YR4/6〉混じり
5　褐色砂質シルト〈7.5YR4/4〉
　にぶい褐色砂質シルト〈7.5YR5/3〉混じり



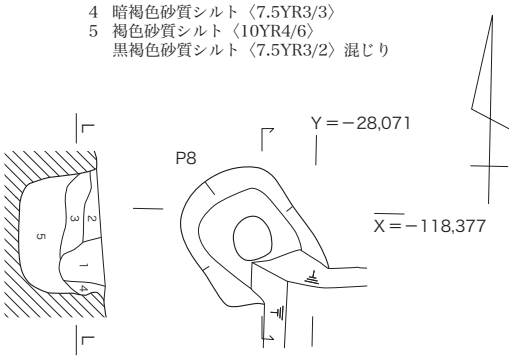
1　褐色砂質シルト〈10YR4/4〉
2　褐色砂質シルト〈7.5YR4/3〉
　褐色砂質シルト〈7.5YR4/6〉混じり
3　暗褐色砂質シルト〈7.5YR3/3〉
　明褐色砂質シルト〈7.5YR5/8〉混じり



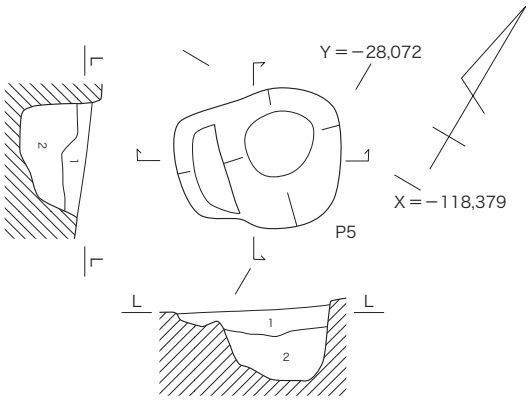
1　灰褐色砂質シルト〈5YR4/2〉
　黄褐色砂質シルト〈10YR5/6〉ブロック混じり
2　黄褐色砂質シルト〈10YR5/6〉
　灰褐色砂質シルト〈7.5YR4/2〉混じり
3　褐色砂質シルト〈7.5YR4/4〉
　明褐色砂質シルト〈7.5YR5/6〉ブロック混じり
4　暗褐色砂質シルト〈7.5YR3/3〉
5　褐色砂質シルト〈10YR4/6〉
　黒褐色砂質シルト〈7.5YR3/2〉混じり



1　灰褐色砂質シルト〈5YR4/2〉
　明褐色砂質シルト〈7.5YR5/6〉ブロック混じり



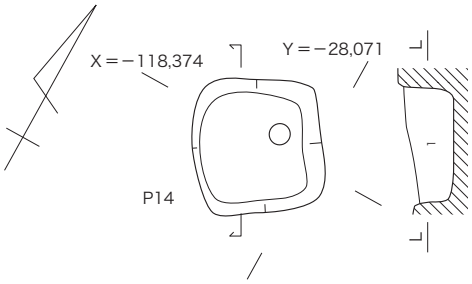
1　灰褐色砂質シルト〈5YR4/2〉
　黄褐色シルト〈10YR5/6〉ブロック混じり
2　にぶい褐色砂質シルト〈7.5YR5/3〉
　黄褐色シルト〈10YR5/6〉ブロック混じり
3　にぶい褐色砂質シルト〈7.5YR5/3〉
　黄褐色シルト〈10YR5/6〉ブロック多い
4　灰褐色砂質シルト〈5YR4/2〉
　黄褐色シルト〈10YR5/6〉混じり
5　にぶい褐色砂質シルト〈7.5YR5/3〉
　灰褐色砂質シルト〈7.5YR4/2〉混じり



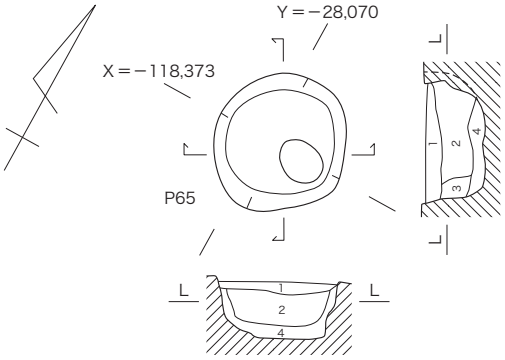
1　灰褐色砂質シルト〈5YR4/2〉
2　灰褐色砂質シルト〈5YR4/2〉
　黄褐色砂質シルト〈10YR5/6〉ブロック混じり

L＝32.6m　0　2m

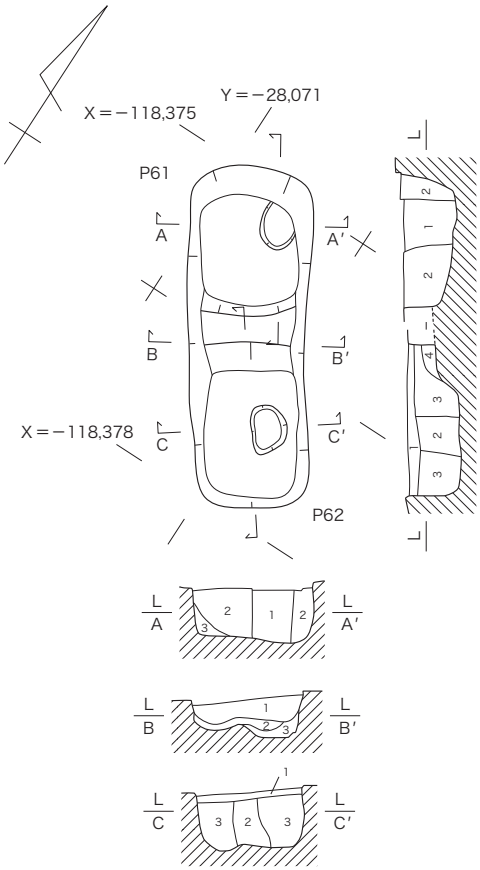
第９図　掘立柱建物 SB51 柱穴実測図− 1 （1/50）



1　褐色砂質シルト〈10YR4/4〉
　暗褐色砂質シルト〈7.5YR3/3〉混じり



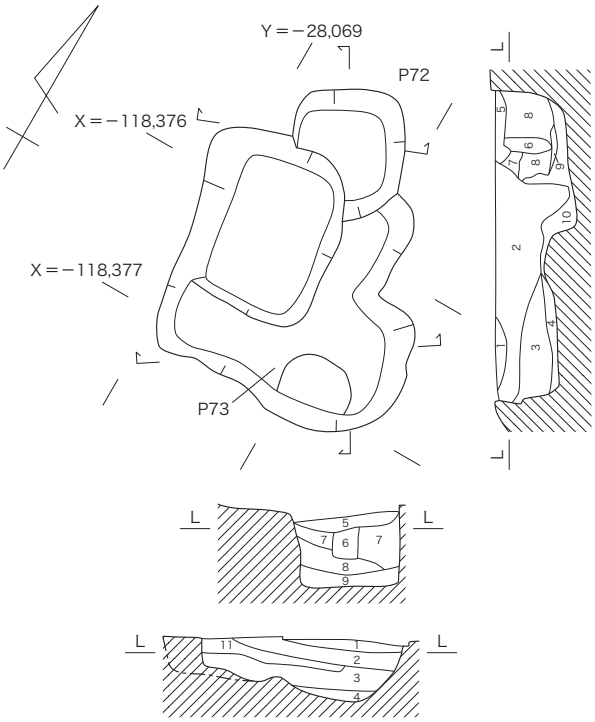
1　褐灰色砂質シルト〈7.5YR4/1〉
　にぶい黄橙色砂質シルト〈10YR6/4〉混じり
2　にぶい褐色砂質シルト〈7.5YR5/3〉
　にぶい黄橙色砂質シルト〈10YR6/4〉混じり（粘質強い）
3　灰黄褐色砂質シルト〈10YR6/2〉
　褐灰色砂質シルト〈10YR4/1〉ブロック混じり
4　黒褐色砂質シルト〈7.5YR3/2〉
　褐灰色砂質シルト〈10YR5/1〉混じり



A−A′
1　灰褐色砂質シルト〈5YR4/2〉
　明褐色砂質シルト〈7.5YR5/6〉ブロック混じり
2　明褐色砂質シルト〈7.5YR5/6〉
　灰褐色砂質シルト〈5YR4/2〉混じり
3　灰褐色砂質シルト〈7.5YR4/2〉
　灰黄褐色砂質シルト〈10YR6/2〉混じり

B−B′
1　明褐色砂質シルト〈7.5YR5/6〉
　褐色砂質シルト〈7.5YR4/3〉混じり
2　灰褐色砂質シルト〈7.5YR4/2〉炭化物混じり
3　灰褐色砂質シルト〈5YR4/2〉
　明褐色砂質シルト〈7.5YR5/6〉ブロック混じり

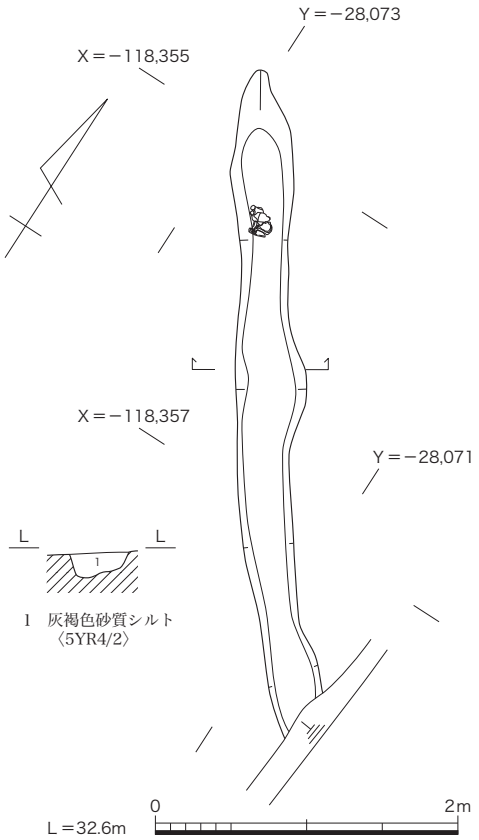
C−C′
1　明褐色砂質シルト〈7.5YR5/6〉
　褐色砂質シルト〈7.5YR4/3〉混じり
2　灰褐色砂質シルト〈7.5YR4/2〉炭化物混じり
3　灰褐色砂質シルト〈5YR4/2〉
　明褐色砂質シルト〈7.5YR5/6〉ブロック混じり
4　にぶい褐色砂質シルト〈7.5YR5/4〉
　にぶい黄橙色砂質シルト〈10YR6/4〉混じり



1　灰褐色砂質シルト〈5YR4/2〉
　明黄褐色砂質シルト〈10YR6/6〉混じり
2　にぶい黄褐色砂質シルト〈10YR5/3〉
　灰褐色砂質シルト〈7.5YR4/2〉ブロック混じり　炭化物混じり
3　灰褐色砂質シルト〈7.5YR4/2〉
　にぶい橙色砂質シルト〈10YR6/4〉混じり
4　明黄褐色砂質シルト〈10YR6/6〉
　にぶい黄褐色砂質シルト〈10YR5/4〉混じり
5　橙色砂質シルト〈7.5YR6/6〉
　にぶい褐色砂質シルト〈7.5YR5/3〉混じり
6　褐色砂質シルト〈7.5YR4/4〉
　明褐色砂質シルト〈7.5YR5/6〉混じり
7　にぶい黄褐色砂質シルト〈10YR5/4〉
　にぶい褐色砂質シルト〈7.5YR5/3〉混じり
8　灰褐色砂質シルト〈7.5YR4/2〉
　明黄褐色砂質シルト〈10YR6/6〉混じり
9　明黄褐色砂質シルト〈10YR6/6〉
　灰褐色砂質シルト〈7.5YR4/2〉ブロック混じり
10　褐色シルト〈7.5YR4/3〉
　褐色シルト〈7.5YR4/6〉混じり
11　にぶい黄橙色砂質シルト〈10YR6/4〉
　明黄褐色砂質シルト〈10YR6/6〉混じり

L＝32.6m　0　2m

第 10 図　掘立柱建物 SB51 柱穴実測図−２（1/50）



第 11 図　溝 SD25 実測図（1/50）

不明遺構ＳＸ 54　南拡張区南部で検出した不定形の遺構である。遺構内に P67・72・73 を含む。認識し得なかった他の小穴残存部を含んだものか。埋土中より土師器と須恵器の小片が出土した。

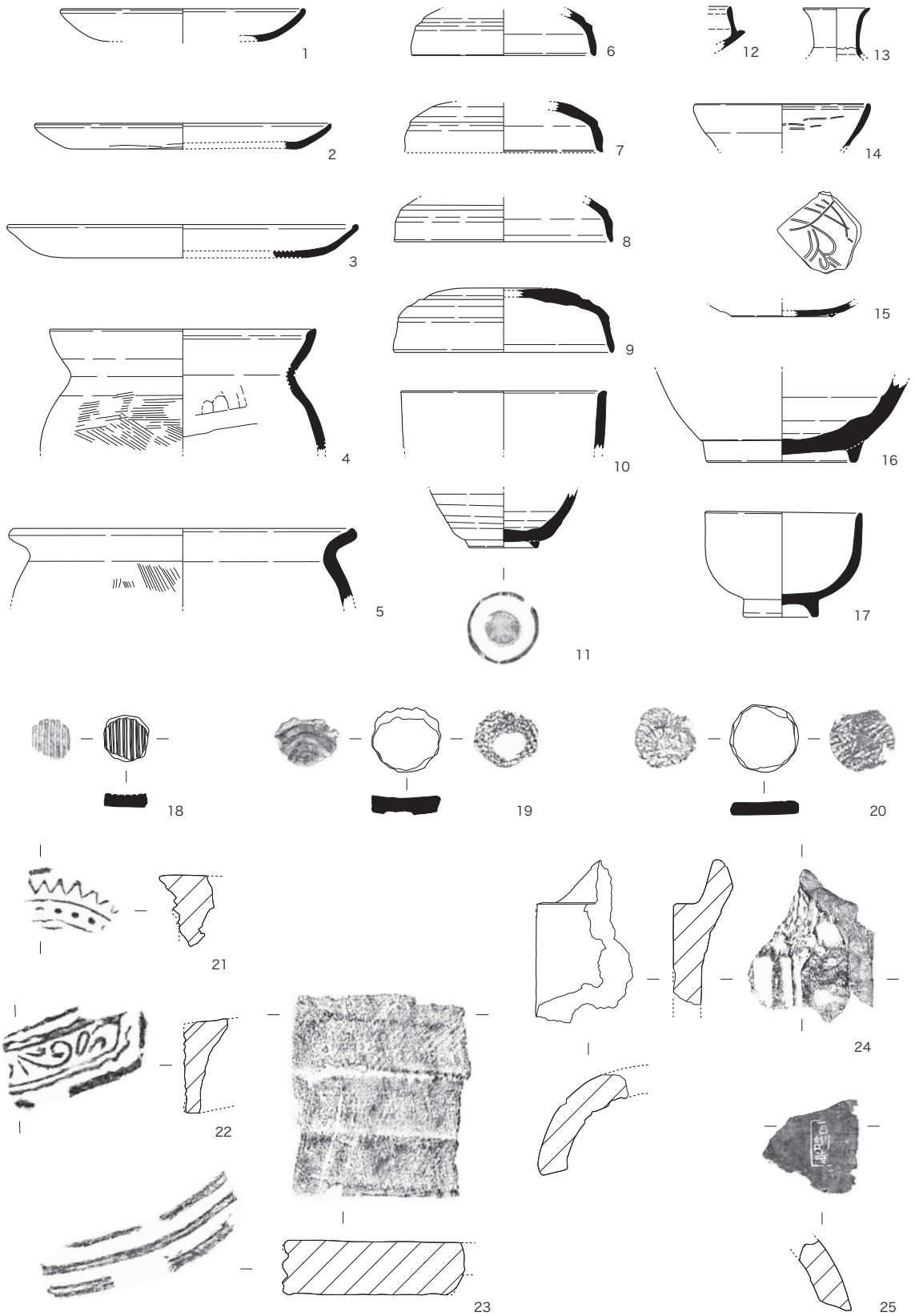
以上の古墳時代とした遺構は、SX54 を除きいずれも北西−南東方向を指向する。当該期の地形の影響を受けていたものと考えられる。

4　出土遺物

今回の調査では、土師器、須恵器、瓦器、瓦、磁器、土製品などが整理箱に 11 箱程度出土した。そのうち約半分は布目痕のある瓦片である。また、遺物の多くは近世および現代の撹乱から出土しており、遺構に伴う遺物はわずかであった（第 12 図）。

土師器　1 〜 3 は皿の小片である。1 は口縁部が外傾しつつやや大きく立ち上がり、端部を内面に折り返して厚くする。外面の摩滅が著しく調整は不明である。口縁部の一部に煤が付着する。2・3 は口縁部が外傾しつつ立ち上がり、端部をわずかに厚くする。2 の口縁部の一部には煤が付着する。3 は撹乱直下より出土しており付着物による変色が著しい。1 〜 3 はいずれも長岡京期。4 は布留式併行期とみられる甕である。やや内湾する口縁部で、端部の内側を厚くし、内傾するにぶい面を形成する。体部内面にはケズリを施し、体部外面には横位のハケメが残る。内面には付着物が貼り付く。5 世紀前半の所産とみられる。5 は甕である。外傾する口縁部の端部をわずかにつまみあげる。外面に縦位のハケメがわずかに認められる。

須恵器　6 〜 9 は杯蓋の小片である。6 は頂部と口縁部の境界にややにぶい稜を有し、稜の上部に凹線が巡る。口縁端部には内傾する面を作り、先端は丸くおさめる。7 は頂部と口縁部の境界ににぶい稜を有し、稜の下部ににぶい凹線が巡る。口縁端部は内側に段を作り、尖端は欠損する。8 は頂部と口縁部の境界にかろうじて稜が認められ、稜の下方ににぶい凹線が巡る。口縁端部はわずかに外側へ開き、先端部は丸くおさめる。9 は頂部と口縁部の境界にかろうじて稜が認められ、頂部に 2 条の凹線が巡る。口縁端部は丸くおさめる。胎土に直径 3 mm 以下の長石、チャートを含む。6 〜 9 は 6 世紀後半頃の所産とみられる。10 は鉢の小片である。ほぼ垂直に近い体部をもち、口縁部は内傾するにぶい面をもつ。11 は椀の底部か。内外面ともにロクロナデを施す。断面台形の貼り付け高台で、高台内に糸切り痕を残す。12 は杯身の小片である。支部は短く丸みを帯び、先端に稜を有する。口縁部は内傾気味に立ち上がり、端部内面に段を有し、先端はにぶい尖状を呈す。13 は壺Mの口縁部小片である。わずかに外反する頸部から口縁部が外に開く。



1～5 － 土師器、6～13 － 須恵器、14･15 － 瓦器、16 － 白磁、17 － 陶器、18～20 － 円盤状土製品、21～25 － 瓦
1 － SE47、2 － SE68、3 － P28、4 － SD25、5･6･9･17 － SD04、7 － P62、8 － P72
10 － SX54、12 － P59、14･22･23 － SD01
11･15･20 － 包含層、13･16･18･19･21･24･25 － 攪乱

0　20cm

第 12 図　出土遺物実測図（1/4）

口縁端部は丸くおさめる。頸部付け根内面に貼り付け痕跡が残る。

瓦器　14・15 は瓦器椀の小片である。14 は口縁部で端部をわずかに厚くする。焼成が甘く、明桃灰白色を呈し、ミガキの痕跡も認められない。15 は底部小片である。断面三角形の貼り付け高台を有する。内外面ともに摩滅が著しいが、底部内面に暗文の痕跡が認められる。

磁器　16 は白磁の壺または瓶の底部である。高台部外縁からやや開き気味に体部が立ち上がる。外面は高台の接地部以外、高台内も含め丁寧に施釉する。

陶器　17 は茶碗である。軟質の施釉陶器で胎土はやや黄色味を帯びる。高台外縁から丸みをもって立ち上がり、体部上半から口縁部にかけてはほぼ垂直である。口縁端部を丸くおさめる。内外面とも高台の接地面以外に施釉する。近世の所産とみられる。

円盤状土製品　18 ～ 20 は須恵器や陶器を円形に打ち欠いて作成した土製品である。18 はにぶい赤褐色の擂鉢を打ち欠いたもので、片面に櫛状工具による沈線が 7 条認められる。19・20 は須恵器を打ち欠いたもので、いずれも当て具痕とタタキ痕が残る。

瓦類　21 は軒丸瓦の瓦当部である。外区外縁は内向し凸線鋸歯文が施される。外区内縁には連珠文が配され、外区内縁外縁間および内外区間に圏線が巡る。内区の文様は欠損しているため不明である。22 は均等唐草文軒平瓦の瓦当端部で、平城宮 6659A 型式である。摩滅が著しいが、外区の凸線鋸歯文が認められる。第 1 次調査でも 1 点出土した[8]。23 は三重弧文軒平瓦の瓦当部である。瓦当面は型引き手法による幅約 1 cm の平行する弧文が施され、弧文断面は丸みを帯びた三角形を呈する。粘土を張り付けて段顎を形成し、凸面側端部に面取りを施す。凸面は横位のナデによりタタキ痕と布目を摩り消す。凹面は目の細かい布目痕を残す。胎土には 2 mm以下の長石等の砂粒を多く含む。乙訓寺出土軒平瓦 OH–2A 型式[9]とみられる。24 は丸瓦片である。玉縁部の付け根が一部残存する。凸面は板状工具で縦位にナデを施す。凹面には棒状工具の圧痕が残る。25 は丸瓦の小片である。凸面に「乙訓寺」の刻印が残る。近世の所産とみられる。

5　まとめ

今回の調査では、古墳時代、長岡京期、中世、近世の遺構を検出することができた。このうち、中世および近世の遺構は乙訓寺に関連する遺構で、古墳時代の遺構は今里遺跡に属するものと考えられる。

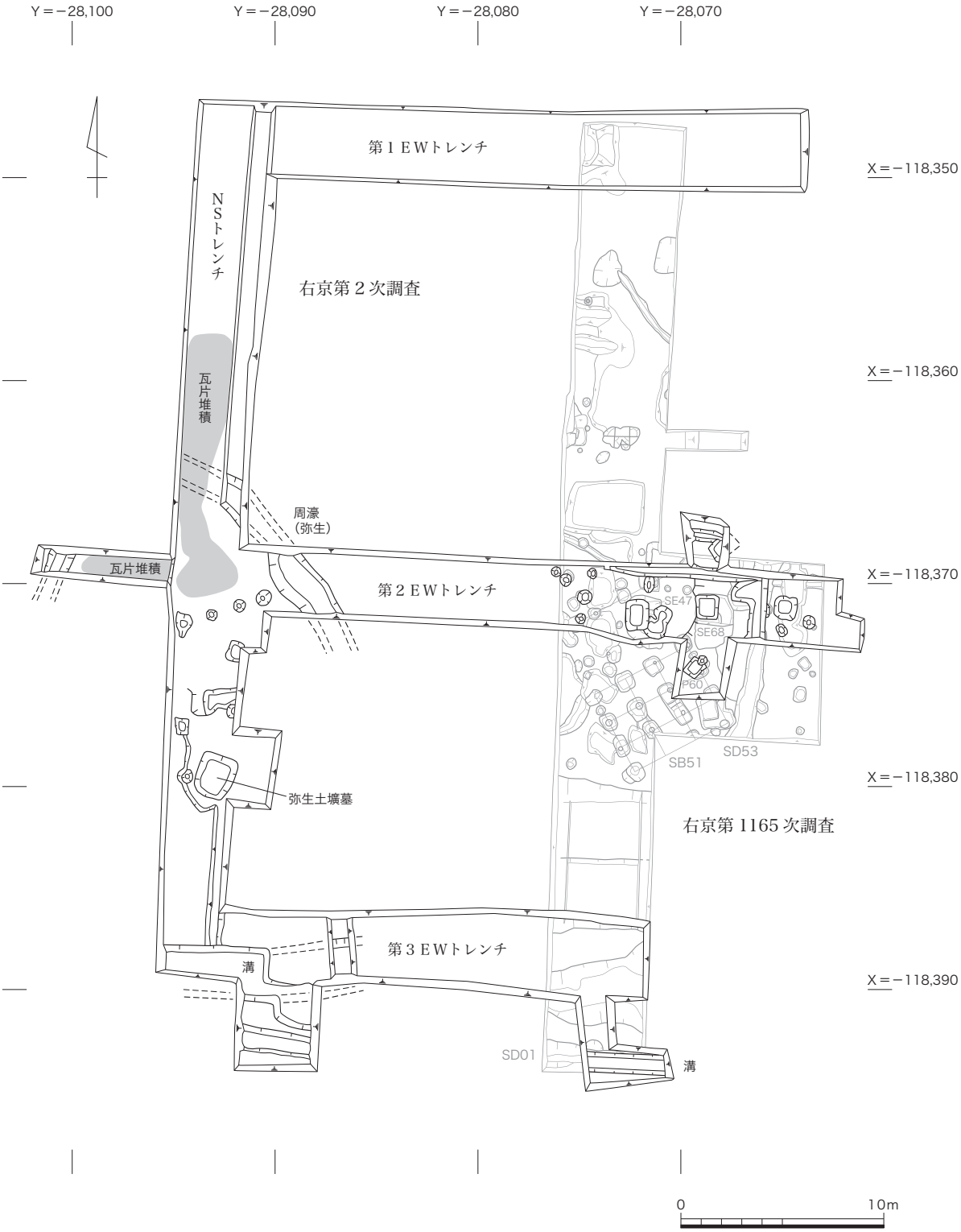
古墳時代の遺構は、5 世紀前半頃の溝 SD25 と 6 世紀後半頃の総柱の掘立柱建物 SB51 の 2 時期に分かれる。周辺調査における 5 世紀前半頃の遺構としては、本調査地から北東約 330 m付近で実施された右京第 12・80・86 次調査の竪穴建物群[10][11]や右京第 282 次調査の流路遺構[12]、南西約 160 mの地点で実施された右京第 716 次調査の竪穴建物[13]、西南西約 300 mの地点で実施された右京第 544 次調査の溝[14]などが挙げられる。また、北東約 220 mの地点には古墳時代前期末の前方後円墳である今里車塚古墳とそれに後続するとみられる前方後円墳の今里庄ノ渕古墳がかつて存在し、関係性が注目されるところである。一方、6 世紀後半頃の遺構としては、北約 280 m付近で実施された右京第 227・598 次調査の掘立柱建物群がある[15][16]。4 間 × 6 間の建物を含む

掘立柱建物が方向を揃えて３棟以上検出されているが、前述の右京第 82・86 次調査区や本調査地の北西約 250 mに位置する右京第 701 次調査区では同時期を含む竪穴建物が検出されており[17]、先進的な性格を有する掘立柱建物群は周辺地域の首長居館と目されている。今回 SB51 が検出されたことで掘立柱建物群の範囲が南側へ大きく広がる可能性があるが、本調査区と右京第 227・598 次調査区の間には埋没した開析谷が知られ、同一の建物群に含めるかは検討の余地がある。

なお、今回の調査では当初の目的である古代乙訓寺の主要伽藍に関する遺構は検出されなかった。古代の遺構としては長岡京期の井戸２基と小穴が検出されたが、当該遺構が乙訓寺の関連施設に伴うものであるかは現在のところ不明である。一方で、中世〜近世の寺域に関しては貴重な成果を得ることができた。すなわち、中世乙訓寺の南限を画するとみられる東西溝 SD01 と近世乙訓寺の南限を画するとみられる東西溝 SD04 および東限を画するとみられる南北溝 SD53 である。特に南限に関しては、南側隣接地で実施された第８次（右京第 330 次）調査において室町時代後半から安土桃山時代にかけての土坑や小穴が多数検出されており[18]、溝の北と南で明らかに様相が異なることから、当該期には乙訓寺の寺域が明確に意識されていたものと考えられる。

最後に、今回の調査で推定することができた第２次（右京第２次）調査区を第 13 図に示す。第２次調査は昭和 44（1969）年に乙訓寺発掘調査団によって実施されたもので、遺構平面図および断面図と出土遺物一覧表などを伝えるのみである。平面図には国土座標値の記入がなく、周辺地形も変化しており、長らく調査区の位置が不明であった。今回の調査で検出した掘立柱建物柱穴 P60 に埋め戻された痕跡が残り、かつ遺構平面図に良く似た平面形状の小穴が記されていることから、これを起点に周辺遺構を照合したところ、溝 SD01・53 ほかいくつかの小穴が合致した。これを以って第２次調査区の推定位置としたものである。

注１）吉本堯俊「乙訓寺発掘調査概要」『京都府概報』1967 年
２）浪貝　毅「乙訓寺境内遺跡」『日本考古学年報』21・22・23　1968 〜 1970 年度版
３）原　秀樹「長岡京跡右京第 318 次（7ANIHR-3 地区）調査概要」『長岡京市報告書』第 22 冊　1989 年
４）原　秀樹「長岡京跡右京第 703 次（7ANIHR-6 地区）調査概要　－長岡京跡右京四条三坊八町、今里遺跡、乙訓寺－」『長岡京市報告書』第 43 冊　2002 年
５）中尾秀正「乙訓寺の瓦」『向日市報告書』第 20 集　1987 年
６）「今里村乙訓寺惣指図」（中井家文書）、「乙訓寺修営指図」（乙訓寺文書）、「乙訓寺境内指図」（乙訓寺文書）ほか
７）４に同じ
８）５に同じ
９）５に同じ
10）高橋美久二ほか「長岡京跡右京第 26 次発掘調査概要」『京都府概報』1980 年　第２分冊
11）山本輝雄ほか「長岡京跡右京第 80・86 次（7ANITT-5･7 地区）調査概要」『長岡京市報告書』第９冊　1982 年
12）木村泰彦「右京第 282 次（7ANIAC 地区）調査略報」『長岡京市センター年報』昭和 62 年度　1989 年
13）中島皆夫「長岡京跡右京第 716 次発掘調査報告」『長岡京市センター報告書』第 23 集　2001 年
14）岩﨑　誠・中島皆夫『長岡京市センター報告書』第 19 集　2000 年
15）木村泰彦「右京第 227 次（7ANIAE-5 地区）調査略報」『長岡京市センター年報』昭和 61 年度　1988 年
16）小田桐　淳「右京第 598 次（7ANIAE-11 地区）調査概報」『長岡京市センター年報』平成 10 年度　2000 年
17）岩﨑　誠「右京第 701 次（7ANIKU-5 地区）調査概報」『長岡京市センター年報』平成 13 年度　2003 年
18）原　秀樹「長岡京跡右京第 330 次（7ANIHR-4 地区）調査概要 －右京三条三坊六町・乙訓寺跡・今里遺跡－」『長岡京市報告書』第 24 冊　1990 年



（※乙訓寺発掘調査団　浪貝 毅氏 作図面を再トレース後加筆）

第 13 図　乙訓寺第２・24 次調査 遺構平面複合図（1/300）

付表−３　出土遺物観察表

種類	器形	番号	法量（cm）			色調	調整等	残存部位	出土遺構地点
			口径	器高	底径				
土師器	皿	1	(16.2)	(2.1)		橙褐色	内面：ナデ　外面：摩滅 口縁部：煤付着	口縁部 小片	SE47
		2	(19.6)	(1.7)		橙褐色	内面：ナデ 口縁部外面：ケズリのちナデ 底部外面：ケズリ	口縁部 1/8	SE68
		3	(23.2)	(2.2)		灰白色	内面：ナデ　黒色付着物 外面：摩滅、ケズリか	口縁部 1/8	P28
	甕 （布留）	4	(17.6)	(8.1)		橙色	口縁部〜頸部内面：ヨコナデ 体部内面：ナデのちケズリ 口縁部〜頸部外面：ヨコナデ 体部外面：ハケ	口縁部〜 体部 1/5	SD25
	甕	5	(23.0)	(5.1)		橙色	内面：ナデ 口縁部〜頸部外面：ヨコナデ 体部外面：ハケ	口縁部 1/6	SD04
須恵器	杯蓋	6	(12.2)	(3.1)		灰色	内外面：ロクロナデ	口縁部 1/8	SD04
		7	(13.1)	(3.3)		淡青灰色	内面：ロクロナデ 口縁端部：欠 口縁部外面：ロクロナデ 頂部外面：ケズリ 外面：自然釉付着	口縁部 1/8	P62
		8	(14.4)	(2.8)		青灰色	内面：ロクロナデ 口縁部外面：ロクロナデ 頂部外面：ケズリ 外面：自然釉付着	口縁部 1/8	P72
		9	(14.6)	(4.3)		青灰色	内面：ロクロナデ 口縁部外面：ロクロナデ 頂部外面：ケズリ	1/4	SD04
	鉢	10	(13.6)	(3.8)		灰色	内外面：ロクロナデ	口縁部 1/6	SX54
	椀か	11		(3.7)	4.6	灰色	内面：ロクロナデ 体部外面：ロクロナデ 底面：糸切り痕　貼り付け高台	底部	包含層
	杯身	12		(2.9)		青灰色	内外面：ロクロナデ	口縁部 小片	P59
	壺	13	(4.4)	(3.3)		灰色	内外面：ロクロナデ	口縁部 1/3	撹乱
瓦器	椀	14	(11.6)	(2.9)		明桃灰白色	内面：ミガキ　口縁部外面：ナデ 体部外面：未調整　内外面：摩滅	口縁部 1/5	SD01
		15		(0.9)	(6.6)	青灰色	内面：ミガキ　貼り付け高台縁辺：ナデ	底部 1/4	包含層

種類	器形	番号	法量（cm）			色調	型式・施文・調整等	残存部位	出土遺構地点
			口径	器高	底径				
白磁	壺	16		(5.9)	10.0	素地：灰白色 施釉：明青灰色	内面：ロクロナデ 外面：施釉　高台接地面のみ無釉	底部	撹乱
陶器	茶碗	17	(10.4)	7.0	5.0	素地：灰白色 施釉：淡黄色	内外面：施釉	2/3	SD04
円盤状土製品		18	2.9	3.1	8.5	褐色	内面：すり目 外面：ケズリ　陶製擂鉢を転用か		撹乱
		19	4.5	4.2	1.1	暗灰色	内面：同心円あて具痕 外面：タタキ　須恵器甕を転用か		撹乱
		20	4.5	4.5	8.0	灰色	内面：同心円あて具痕 外面：タタキ　須恵器甕を転用か		包含層
瓦	軒丸瓦（瓦当部）	21	残存幅 (8.0)	残存長 (3.5)	–	青灰色	外区内縁：連珠文 外区外縁：凸線鋸歯文　藤原宮式軒丸瓦か		撹乱
	軒平瓦	22	残存幅 (11.0)	残存長 (3.0)	厚 6.0	灰白色	内区：均等唐草文 上下外区・脇区：凸線鋸歯文　界線あり　平城宮 6659A		SD01
		23	残存幅 14.0	残存長 12.0	厚 3.5	褐灰色	三重弧文　「三角形」型引		SD01
	丸瓦	24	残存幅 5.9	残存長 10.0	厚 2.0	暗青灰色	凹面：布目　叩き棒痕		撹乱
		25	残存幅 3.4	残存長 6.9	厚 1.9	暗青灰色	「乙訓寺」刻印		撹乱

第２章　長岡京市内遺跡詳細分布調査概要

１　はじめに

１　本報告は、平成 29（2017）年４月３日から 12 月 28 日まで、京都府長岡京市内一円において実施した詳細分布調査に関するものである。平成 30（2018）年１月から３月末までの調査分に関しては来年度、また原因者負担金によって実施した調査については別途（『長岡京市埋蔵文化財センター年報』平成 29 年度）に報告する予定である。

２　本調査は、平成 29 年度国庫補助事業として長岡京市教育委員会が主体となり、教育委員会から委託を受けた公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センターが実施したものである。

３　調査にあたっては、工事の申請者や土地所有者をはじめ、工事施工者の方々に種々のご理解とご協力を賜った。現地での調査は、白川成明、中島皆夫、原　秀樹、福家　恭、大髙義寛、湯本　整、岩﨑　誠、山本輝雄が担当した。

４　本報告の編集と執筆は、山本が行った。

２　調査概要

長岡京市は、市街地の大部分が長岡京跡の範囲に含まれていることに加え、神足遺跡や恵解山古墳などの集落跡や古墳、それに勝龍寺城跡といった城跡など各種の遺跡が重複して分布している。このため、文化財保護法第 93 条１、第 94 条１の埋蔵文化財届出書・通知は平成 28 年度でいうと 373 件にも及び、それに伴う発掘調査や試掘調査、さらには詳細分布調査などを１年を通じて絶えることなく実施している。

長岡京市における詳細分布調査は、個人の住宅など小規模な開発行為に伴うものの他、ガスや上下水道など原因者の負担により実施しているものがある。今回報告するのは、前者に関わるもので、平成 29 年４月３日から 12 月 26 日まで実施した 232 件に関わるものである。調査の対象になるのは、その大半を占めている個人の住宅建設をはじめ、集合住宅建設や宅地造成工事などといった民間の事業に加え、上下水道を除く長岡京市の公共事業に関わる工事に際しても行っている。いずれの場合も、工事の規模や構造が基準を満たしていない、あるいは基礎底面が浅いなどが原因で、行政指導上発掘や試掘調査に至らなかったものを対象にしている。また、個人住宅や集合住宅の場合、地盤改良工事を事前に行う事例が年々多くなっており、地盤改良工事と基礎工事の複数回調査を行う場合があるし、さらに今年度からは工事面積が極小な電柱の埋設工事に際しても調査を行うことになった。

調査地は、長岡京市内一円に広く及んでいるが、最近の動向としては阪急電鉄西山天王山駅の開設や京都縦貫道の開通の影響もあってか、長岡京市の南部地域にあたる勝竜寺、調子、下海印寺、奥海印寺地区において調査の件数が増加しつつある。また、遺跡別でみると、長岡京跡の右

付表−４　遺跡別詳細分布調査件数一覧表

遺　跡　名	件数	遺　跡　名	件数	遺　跡　名	件数
長岡京跡右京域	182	土山遺跡	7	今里北ノ町遺跡	2
長岡京跡左京域	21	井ノ内遺跡	6	明星野遺跡	2
長岡京跡関連遺跡	2	陶器町遺跡	6	上里遺跡	2
奥海印寺遺跡	21	東代遺跡	6	長法寺遺跡	2
今里遺跡	21	開田遺跡	6	鞆岡廃寺	1
雲宮遺跡	11	開田城ノ内遺跡	4	脇山遺跡	1
友岡遺跡	11	馬場遺跡	4	十三遺跡	1
下海印寺遺跡	11	長法寺七ッ塚古墳群	4	南栗ヶ塚遺跡	1
神足遺跡	9	伊賀寺遺跡	3	井ノ内古墳群	1
勝龍寺城跡	8	開田古墳群	3	長岡京域外	1

京域が 182 件であるのに対して、左京域は 21 件しかなく、右京域の 1/9 ほどと非常に乏しい現状であり、長岡京域外にあたる奥海印寺遺跡や土山遺跡などは増加の傾向が認められる。この他、長岡京跡と重複している遺跡では、今里遺跡を筆頭に雲宮遺跡や友岡遺跡、下海印寺遺跡が 10 件を超過しており、神足遺跡や勝龍寺城跡なども件数の多い事例に属している。

以下では、成果を得ることができた主要な調査についてその概要を報告する。

３　主な調査成果

１．第 17024 次調査（第 14 ～ 17・52・53 図）

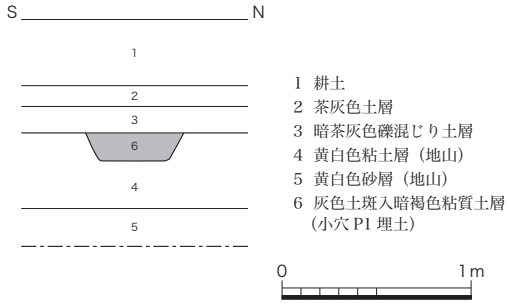
本調査は、宅地造成の擁壁敷設工事に伴うものとして実施したものである。調査地は、今里五丁目 140−1 で、長岡京跡右京三条三坊十四町および今里遺跡に相当する。

調査は、掘削工事に伴い５月２日に実施した。調査地の現状は水田で、地表下 90 ～ 140cm まで掘削が行われた。基本層序は、上から耕作土、茶灰色粘質土（床土）、暗茶灰色礫混じり土層、黄白色粘質土層、黄灰色砂層の順で堆積していたが、そのうち暗茶灰色礫混じり土には土師器の甕や須恵器の杯蓋などの破片が少量含まれており、遺物の包含層であることが知られた。また、黄白色粘質土層と黄灰色砂層は低位段丘を構成する地山であり、西壁の断面において地山を掘り込んだ小穴を２基確認することができた。小穴は、南北に約 15.5 m離れていて、北側の小穴 P1 は南北町約 50cm、深さ 15cm、南側の小穴 P2 は南北長約 105cm、深さ約 20cm の大きさがあり、後者からは土師器の小片が出土している。

第 52 図の１と２は、ともに暗茶灰色礫混じり土層から出土したものである。１は、土師器甕の口縁部片で、外面はタテハケの後にヨコナデ調整、内面はヨコハケ調整し、口径は 27.6cm に復元できた。古墳時代後期の長胴甕になるであろう。２は須恵器杯蓋の破片で、小片のため法量を復元することはできないが、口径が小さくて器高の低い形態になるものと推察される。陶邑古

第 14 図　第 17024 次調査地位置図（1/5000）

第 15 図　第 17024 次調査地全景（北から）



第 16 図　第 17024 次調査断面略図（1/40）

第 17 図　第 17024 次調査断面（東から）

窯跡の TK217 型式に比定することができよう。

この周辺では、長岡京跡右京第 83 次[注1]、同第 412 次[2]、同第 518 次[3]、同第 958 次[4]などの発掘調査が実施されており、今里遺跡に関わる奈良時代を中心とする掘立柱建物が群を成して確認されている。したがって、今回確認できた小穴も、掘立柱建物の柱掘形である可能性が濃厚と考えることができ、建物群の広がりを検討する上に貴重な情報を得ることができたといえる。

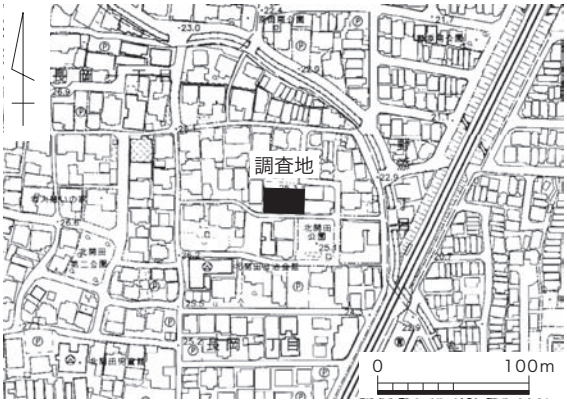
２．第 17044 次調査（第 18 ～ 21 図）

本調査は、鉄骨３階建ての個人住宅建設に伴う表層地盤改良工事に伴うものである。調査地は、長岡一丁目 41–13 に所在し、長岡京の条坊復原では右京四条二坊五町に相当する。

調査は、５月 23 日と 29 日の２日間実施した。調査地の現状は宅地であり、掘削は地表下約 110cm まで行われた。地表下約 60cm で橙色砂礫層の地山を確認し、それを掘り込んだ状態の土坑１基を西壁において確認した。土坑は、南北長 100cm、深さ 50cm 以上の大きさがあり、埋土は暗褐色礫混じり土層で、土師器の破片が少量出土した。土師器は、小片のため図化することはできず、したがって器形や時期については不明である。土坑の形態や大きさからすると、掘立柱建物の柱掘形になる可能性も考えられる。

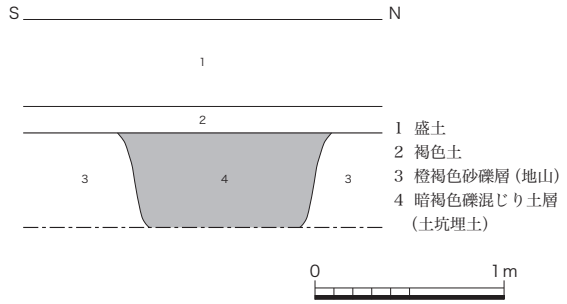
３．第 17073 次調査（第 22 ～ 25 図）

本調査は、木造２階建ての個人住宅建設工事に伴って実施したものである。調査地は、今里薬師堂 24–92 で、長岡京跡右京四条四坊一町および今里遺跡に該当する。



第 18 図　第 17044 次調査地位置図（1/5000）

第 19 図　第 17044 次調査地全景（南東から）

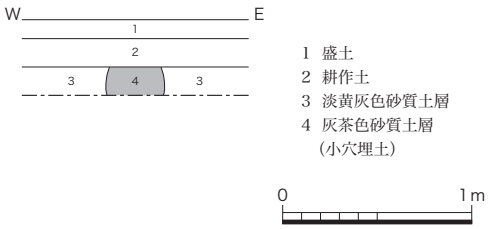


第 20 図　第 17044 次調査断面略図（1/40）

第 21 図　第 17044 次調査断面（東から）

第 22 図　第 17073 次調査地位置図（1/5000）

第 23 図　第 17073 次調査地全景（北西から）



第 24 図　第 17073 次調査断面略図（1/40）

第 25 図　第 17073 次調査平・断面（北から）

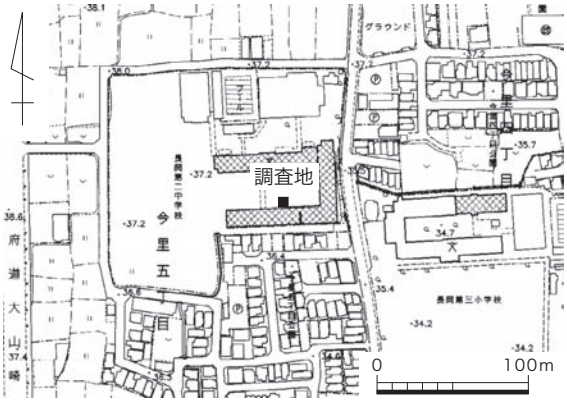
調査は、６月 22 日におこなった。調査地の現状は宅地であり、地表下約 40cm まで掘削された。大半が掘削底面まで撹乱を受けていたが､敷地の南東隅のみがわずかに旧状を保持しており、地表下約 25cm で淡黄灰色砂質土を確認し、それを掘り込んだ径約 30cm の小穴を１基検出することができた。この小穴は、埋土が灰茶色砂質土で、陶器片が１点わずかに出土したのみであり、時期については不明である。

４．第 17115 次調査（第 26 ～ 29 図）

本調査は、中学校のエレベーターホール建設工事に伴って実施したものである。調査地は、今里五丁目 20–1 に所在し、長岡京跡右京三条三坊十一町ならびに今里遺跡に相当する。掘削工事はすでに終了しており、８月１日に現地において掘削された壁面の土層観察や遺物の採集作業などを行った。

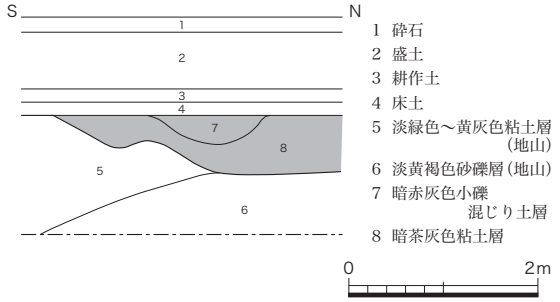
地表下約 230cm まで深く掘削されており、大半が大きく撹乱を受けていたが、北西部のみがわずかに旧状をとどめており、層序は上から砕石、盛土、耕作土、床土の順で堆積しており、西壁において淡緑色～黄灰色粘土層の地山面から掘り込まれた溝状遺構 SD01 を確認した。溝状遺構 SD01 は、南北幅 330cm 以上、深さが約 60cm の大きさがあり、埋土は暗赤灰色小礫混じり土層と暗茶灰色粘土層に２層に分けることができた。土師器片と須恵器甕などの遺物が少量出土しているが、小片のため器種や時期は不明である。

５．第 17135 次調査（第 30 ～ 33・52・53 図）



第 26 図　第 17115 次調査地位置図（1/5000）

第 27 図　第 17115 次調査地全景（北西から）



第 28 図　第 17115 次調査断面略図（1/80）

第 29 図　第 17115 次調査断面（東から）

本調査は、木造２階建ての個人住宅建設工事に伴って行ったものである。調査地は、勝竜寺41–1 の一部で、長岡京跡右京七条一坊五町および勝龍寺城跡の範囲に含まれていた。

調査は、８月 28 日、29 日の２日間行った。調査地の現状は宅地であり、工事では地表下約80cm まで掘削された。層序は、上から盛土、暗黄灰色砂礫層、暗黄灰色礫混じり土層、茶灰色砂礫層の順で堆積しており、遺構は確認できなかったが、暗黄灰色礫混じり土層から陶器片が１点出土している。この他、市教育委員会が７月 31 日に実施した深さ確認調査で土師器や瓦器の小片が出土している。

第 52 図の５は、暗黄灰色礫混じり土層から出土した染付の碗で、口径は 10cm に復元できる。近世以降のものであろう。

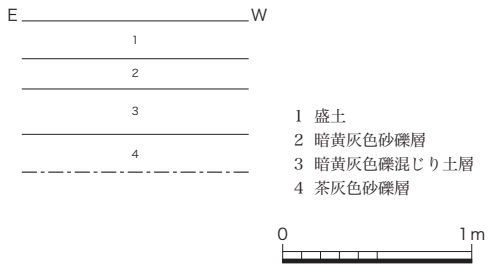
６．第 17191 次調査（第 34 ～ 37・52・53 図）

本調査は、鉄骨１階建ての福祉施設建設工事に伴って実施したものである。調査地は、井ノ内広海道 42–3 に所在し、長岡京跡右京二条四坊六町と井ノ内遺跡、井ノ内古墳群の範囲に含まれている。すぐ南側には、古墳時代後期の首長墓である井ノ内稲荷塚古墳が、また北側には同じく後期の方墳や土壙墓からなる井ノ内古墳群が所在している。

調査は、10 月 24 日から 27 日にかけての４日間実施した。調査地の現状は造成地であり、地表下約 210cm まで掘削され、地表下 70 ～ 120cm で黄褐色粘質土の地山を確認した。敷地北西隅の北側壁面において、地山を掘り込んだ土坑 SK01 を確認した。土坑は SK01、東西 180cm

第 30 図　第 17135 次調査地位置図（1/5000）

第 31 図　第 17135 次調査地全景（南東から）

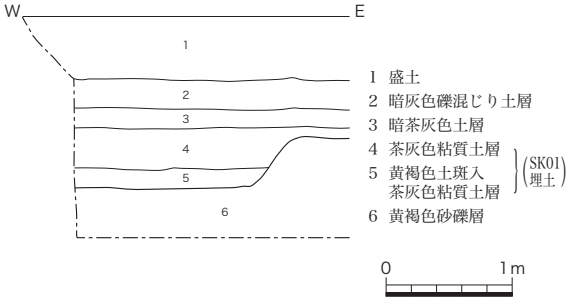


第 32 図　第 17135 次調査断面略図（1/40）

第 33 図　第 17135 次調査断面（北から）

第 34 図　第 17191 次調査地位置図（1/5000）

第 35 図　第 17191 次調査地全景（北西から）

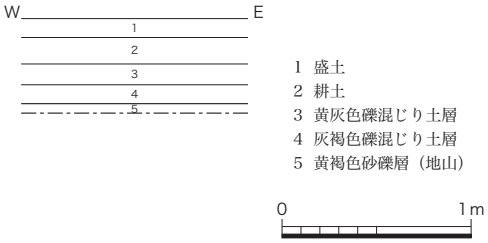


第 36 図　第 17191 次調査断面略図（1/60）

第 37 図　第 17191 次調査断面（南から）

第 38 図　第 17192 次調査地位置図（1/5000）

第 39 図　第 17192 次調査地全景（東から）



第 40 図　第 17192 次調査断面略図（1/40）

第 41 図　第 17192 次調査平・断面（南から）

以上、南北 135cm 以上、深さは 40cm ほどの規模があり、埋土は茶灰色粘質土層と黄褐色土斑入茶灰色粘質土層の上下２層に分けることができ、そこから土師器や須恵器、それに平瓦などの破片が少量出土している。

第 52 図の６は須恵器の杯、７は平瓦の破片で、ともに土坑 SK01 から出土したものである。６は、杯の口縁部片であることは確実であるが、底部の形態が不明のため、杯Ａか、それとも杯Ｂかを判断することは出来ない。口径は 13cm に復元でき、内外面に火襷の痕跡をとどめている。７は、凹面に布圧痕をわずかにとどめ、凸面はナデ調整している。焼成は軟質で、土師質に仕上がっている。ともに長岡京期前後の時期のものと推察することができよう。

７．第 17192 次調査（第 38 ～ 41 図）

本調査は、集合住宅建設工事に伴って実施したものである。調査地は、長法寺北畠 19-1、19−3、19−5（一部）、19−9、21−3 に所在しており、長岡京跡右京四条四坊十六町および長法寺七ッ塚古墳群に該当する。

調査は、10 月 26 日に実施した。調査地の現状は畑地であり、基礎の掘削は地表下約 50cm まで行われた結果、地表下約 45cm で黄褐色粘質土ないし砂礫層の地山を確認することができた。敷地の北西部では、地山を掘り込んだ小穴を１基確認した。小穴は、径が約 60cm ある楕円形を呈しており、埋土は淡茶灰色小礫混じり土であるが、出土した遺物はなく、時期を決めることはできなかったが、埋土の状況からすると中世以降のものと推察される。

８．第 17206 次調査（第 42 ～ 49・52・53 図）

本調査は、鉄骨２階建の病棟増築工事に伴って実施したものである。調査地は、市の北部地域にあたる井ノ内白海道８および横ヶ端 18−1 に所在し、長岡京の条坊復原では右京三条四坊一町に相当するとともに井ノ内遺跡の範囲にも含まれていた。北側には古墳時代後期の首長墓である井ノ内稲荷塚古墳が分布し、すぐ南側には長岡京跡右京第 904 次調査地が隣接している。

調査は、11 月 10 日、13 日、15 日の３日間実施した。調査地の現状は造成地であり、地表下約 170cm まで掘削され、地表下約 110cm で茶灰色砂混じり土層、地表下約 120cm で黄褐色粘質土層の地山を確認した。茶灰色砂混じり土層は全体に認められる堆積層であり、北壁西端部で東西長約 160cm、深さ 40cm の溝状遺構 SD01 を確認した。SD01 は、地山から掘り込まれており、埋土は暗茶褐色粘質土層で、土師器の皿や甕の破片が少量出土した。

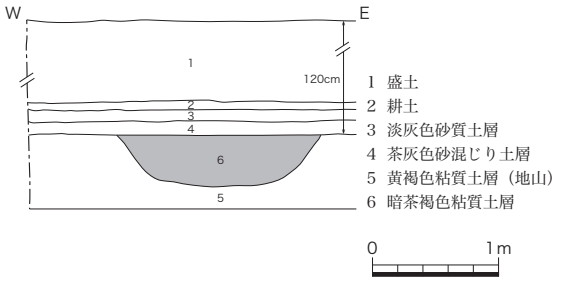
また、北東隅では、地山面から掘り込まれた小穴を３基検出した（第 49 図）。小穴は、それぞれ径 0.15 ～ 0.4 mほどの楕円形を呈しており、埋土は炭粒を含む黒褐色礫混じり粘質土で、土師器や製塩土器の細片が少量出土している。

第 52 図の３・４は、溝状遺構 SD01 から出土した土師器の皿と甕である。３は、口径 6.8cm、器高 0.9cm に復元でき、内面と口縁部外面にナデを施して調整している。４は、口径 16.5cm に復元できる甕の口縁部片であるが、全体に摩滅しているため調整手法は不明である。

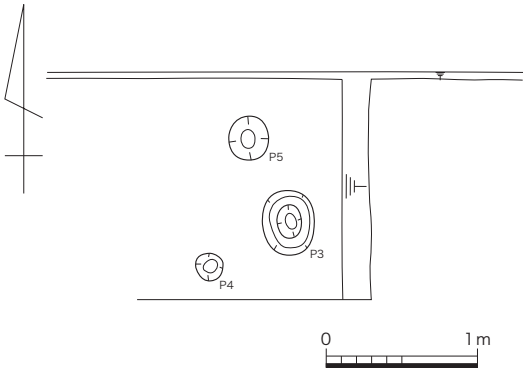
南に隣接する右京第 904 次調査地[5]では、古墳時代や長岡京期の掘立柱建物などの遺構が確認されており、今回確認できた遺構や遺物との関連が注目される。

第 42 図　第 17206 次調査地位置図（1/5000）

第 43 図　第 17206 次調査地全景（東から）



第 44 図　第 17206 次調査断面略図（1/60）



第 45 図　第 17206 次調査平面略図（1/50）

第 46 図　第 17206 次調査断面（南から）

第 47 図　第 17206 次調査断面（北東から）

第 48 図　第 17206 次調査平面（南東から）

第 49 図　第 17206 次調査小穴群（東から）

第 50 図　第 17213 次調査地位置図（1/5000）

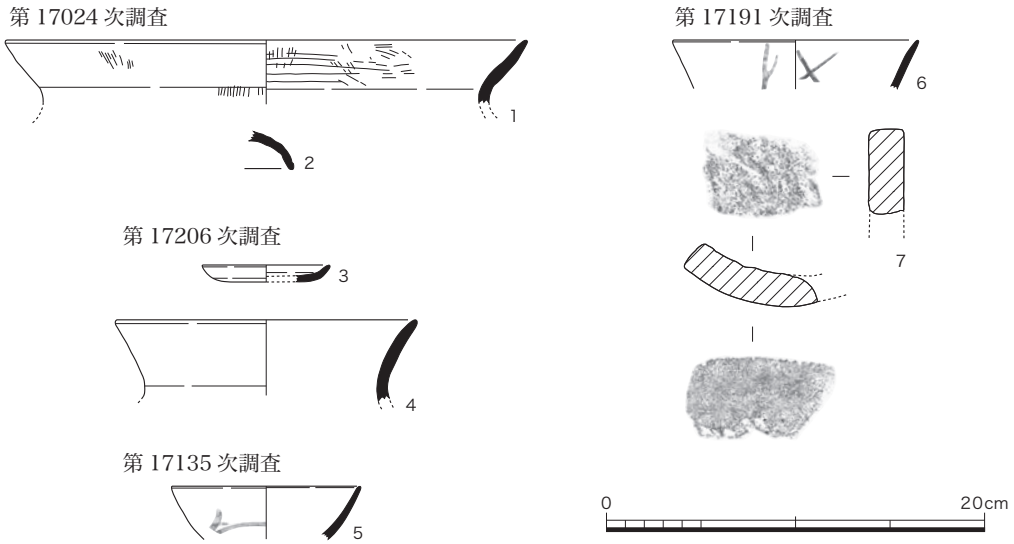
第 51 図　第 17213 次調査断面（東から）

9．第 17213 次調査（第 50・51 図）

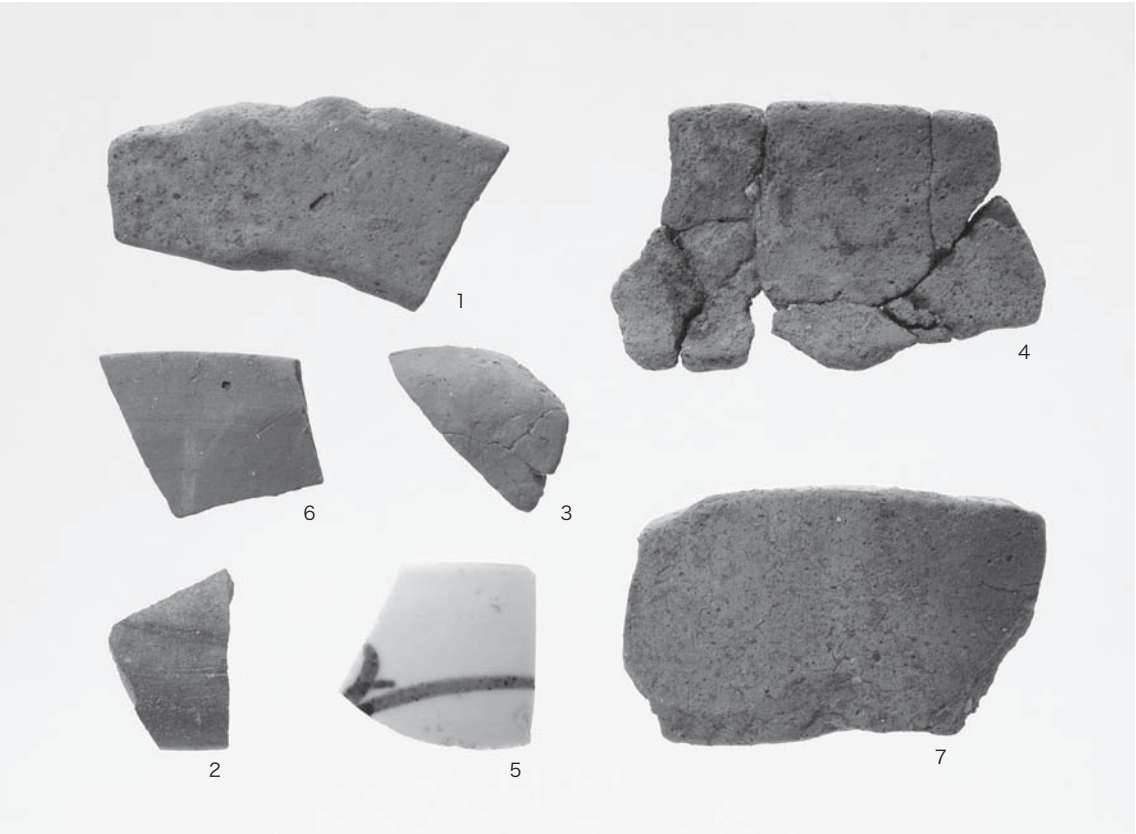
本調査は、鉄骨 2 階建の建物の基礎工事に伴って実施したものである。調査地は、調子一丁目 28–5 に所在しており、長岡京跡右京八条二坊十四町および友岡遺跡に含まれる。

調査は、11 月 15 日に実施した。調査地の現状は宅地であり、地表下 70 ～ 120cm まで掘削され、地表下約 70cm で暗赤褐色粘質土層、地表下 70 ～ 85cm において地山である黄褐色礫混じり土層を確認した。暗赤褐色粘質土層からは土師器と須恵器の細片がごく少量出土しており、遺物包含層ないし遺構の埋土の可能性が考えられた。ただし、調査した範囲が少なく、出土した遺物の情報も乏しいため詳細は不明である。

注 1）山口博他「長岡京跡右京第 83・105 次調査概要」『京都府センター概報』第 9 冊　1984 年
2）原　秀樹「右京第 412 次調査概報」『長岡京市センター年報』平成 4 年度　1994 年
3）中島皆夫「右京第 518 次調査略報」『長岡京市センター年報』平成 7 年度　1997 年
中島皆夫「右京第 518 次調査」『長岡京市センター資料撰』（七）　2016 年
4）岩﨑　誠「右京第 958 次調査」『長岡京市センター年報』平成 20 年度　2010 年
5）木村泰彦「右京第 904 次調査略報」『長岡京市センター年報』平成 19 年度　2009 年



第 52 図　出土遺物実測図（1/4）



第 53 図　出土遺物
（1・2 –第 17024 次調査、3・4 –第 17206 次調査、5 –第 17135 次調査、6・7 –第 17191 次調査）

付表－5　長岡京市内遺跡詳細分布調査一覧表（平成 29 年 4 月～ 12 月）

調査次数	遺　跡　名	所　在　地	工事内容	調　査　日	調　査　概　要
17001	長岡京跡右京四条四坊今里遺跡	今里薬師堂 5–4	木造 2 階建	4 月 3 日	GL–10cm の掘削、盛土のみを確認。
17002	長岡京跡右京四条二坊陶器町遺跡	長岡三丁目 27–41、27–44	木造 3 階建	4 月 3 日	GL–25cm の掘削、盛土のみを確認。
17003	長岡京跡右京八条二坊	調子一丁目 13–1	木造 2 階建	4 月 3・20 日	GL–130cm までの掘削、GL–60cm で橙褐色粘質土層の地山を確認。
17004	長岡京跡右京四条二坊	長岡一丁目 54–14	木造 2 階建	4 月 4 日	GL–30cm の掘削、盛土直下の GL–10cm で橙褐色粘質土層の地山を確認。
17005	長岡京跡左京八条一坊	城の里 24–31	木造 2 階建	4 月 10 日	GL–50cm の掘削、盛土のみを確認。
17006	長岡京跡右京八条二坊	友岡二丁目 21–11	木造 2 階建	4 月 12 日	GL–30cm の掘削、盛土のみを確認。
17007	長岡京跡右京四条三坊陶器町遺跡	長岡三丁目 108–18	木造 3 階建	4 月 13 日	4/10 に鋼管杭打ち込みによる地盤改良済み。GL–45cm の掘削、GL–35cm で耕作土を確認。
17008	長岡京跡右京二条二坊	滝ノ町二丁目 18–17	木造 3 階建	4 月 13 日	GL–40cm の掘削、GL–30cm で耕作土を確認。
17009	長岡京跡右京八条二坊	友岡二丁目 21–9	木造 2 階建	4 月 13 日	GL–20cm の掘削、盛土のみを確認。
17011	長岡京跡右京八条二坊	調子一丁目 12、14–5、15–4	木造 2 階建	4 月 14 日	表層地盤改良工事、GL–50cm の掘削、表土下の GL–15cm で褐色土の堆積を確認。この層が地山であるか否かは不明。
17013	長岡京跡右京三条四坊長法寺七ッ塚古墳群	長法寺北畠 23–11	木造 2 階建	4 月 18 日	GL–40cm の掘削、耕作土、床土の下 GL–30cm で大阪層群とみられる地山を確認。地山は淡黄白色砂礫層ないし淡黄白色粘質土層であった。
17014	長岡京跡左京七条一坊雲宮遺跡	神足木寺町 16	機械装置取替	4 月 19 日 5 月 18 日	GL–120cm の掘削、盛土のみを確認。
17015	長岡京跡右京六条四坊奥海印寺遺跡	奥海印寺火ノ尾 18–1	木造 2 階建	4 月 24 日	GL–40cm の掘削、盛土のみを確認。
17016	長岡京跡右京六条四坊奥海印寺遺跡	奥海印寺火ノ尾 18–2	木造 2 階建	4 月 24 日	GL–100cm の掘削、盛土のみを確認。
17017	長岡京跡右京四条一坊	一文橋二丁目 9–14	木造 2 階建	4 月 24 日	柱状地盤改良工事、GL–170cm の掘削、GL–70cm で耕作土、GL–90cm 以下が黄灰色砂質土層の堆積を確認。
17018	奥海印寺遺跡	奥海印寺東条 13–1 の一部	木造 2 階建	4 月 25 日 5 月 12 日	表層地盤改良と基礎掘削、GL–170cm の掘削、盛土のみを確認。
17019	奥海印寺遺跡	奥海印寺東条 12 の一部、13–3 の一部	木造 2 階建	4 月 25 日	GL–20cm の掘削、盛土のみを確認。
17020	奥海印寺遺跡	奥海印寺東条 13–1、4–14 の一部	木造 2 階建	4 月 25 日	GL–35cm の掘削、盛土のみを確認。
17021	奥海印寺遺跡	奥海印寺東条 13–1 の一部	木造 2 階建	4 月 25 日	GL–20cm の掘削、盛土のみを確認。
17022	長岡京跡右京七条二坊	神足三丁目 207–2、208–3、209 の一部	木造 2 階建	4 月 27 日	表層地盤改良工事、GL–40cm の掘削、盛土のみを確認。
17023	長岡京跡右京五条三坊東代遺跡	天神四丁目 106–2、136–8	鉄骨 2 階建	4 月 28 日 5 月 8 日	柱状地盤改良と基礎掘削、GL–60cm の掘削、盛土のみを確認。
17024	長岡京跡右京三条三坊今里遺跡	今里五丁目 140–1	宅地造成	5 月 2 日	**本文に掲載**
17025	奥海印寺遺跡	奥海印寺東条 13–3、12 の一部	木造 2 階建	5 月 8 日	GL–30cm の掘削、盛土のみを確認。
17026	長岡京跡右京四条一坊	一文橋二丁目 14–10	木造 3 階建	5 月 8 日	GL–20cm の掘削、盛土のみを確認。
17027	長岡京跡右京五条四坊	長法寺川原谷 19–5、19–9	木造 2 階建	5 月 9 日	GL–50cm の掘削、盛土のみを確認。
17028	長岡京跡右京三条三坊今里遺跡	今里四丁目 35–7	木造 2 階建	5 月 9 日	柱状地盤改良工事済み、GL–50cm の掘削、盛土のみを確認。

調査次数	遺　跡　名	所　在　地	工事内容	調　査　日	調　査　概　要
17029	長岡京跡右京二条二坊	滝ノ町二丁目２　市有水路敷	宅地造成	５月９日	GL–60cm の掘削、盛土のみを確認。
17030	長岡京跡右京五条二坊	長岡二丁目 6–45 の一部	木造２階建	５月９日	柱状地盤改良工事済み、GL–30cm の掘削、盛土のみを確認。
17031	長岡京跡右京五条三坊	天神五丁目 13–1、13–3、13–5、13–9、107 の一部、市有地	水道管敷設	５月９～12・15～17・19・22・23 日	GL–90 ～ 110cm の掘削、既設管により撹乱を受けていた。
17032	長岡京跡右京六条一坊神足遺跡、勝龍寺城跡	東神足一丁目 3–13、3–80	木造２階建	５月 10 日	基礎の掘削はなし。
17033	長岡京跡右京五条二坊	長岡一丁目 218–11	木造２階建	５月 10 日	GL–40cm の掘削、盛土のみを確認。
17034	長岡京跡右京四条二坊	長岡一丁目 222–35（C2 号地）	木造２階建	５月 10 日	GL–5cm の掘削、盛土のみを確認。
17035	長岡京跡右京二条二坊	滝ノ町二丁目 39–6、39–9	木造２階建	５月 10 日	GL–5cm の掘削、盛土のみを確認。
17036	長岡京跡右京六条四坊下海印寺遺跡	奥海印寺森ノ下 10–10	木造２階建	５月 15 日	GL–10 ～ 50cm の掘削、盛土のみを確認。
17037	長岡京跡右京四条四坊	今里細塚 4–3、4–5	木造２階建	５月 16・23日	鋼管杭打ち込みによる地盤改良の後、GL–40cm の掘削、盛土のみを確認。
17038	長岡京跡右京五条三坊	長岡二丁目 230–14	木造２階建	５月 18 日	GL–30cm の掘削、盛土のみを確認。
17039	奥海印寺遺跡	奥海印寺東条 12 の一部	木造２階建	５月 19 日	GL–25cm の掘削、盛土のみを確認。
17040	奥海印寺遺跡	奥海印寺東条 12 の一部	木造２階建	５月 19 日	GL–20cm の掘削、盛土のみを確認。
17041	長岡京跡右京三条二坊	柴ノ里 10–207	木造２階建	５月 19 日	GL–30cm の掘削、盛土のみを確認。
17042	長岡京跡右京三条二坊今里遺跡	今里畔町 13 の一部	木造２階建	５月 19 日	柱状地盤改良工事済み。GL–30cm の掘削、盛土のみを確認。
17043	長岡京跡右京二条三坊上里遺跡	井ノ内北内畑 12–1	木造２階建	５月 22 日	既に基礎工事は終了していた。
17044	長岡京跡右京四条二坊	長岡一丁目 41–13	鉄骨３階建	５月 23・29日	**本文に掲載**
17045	長岡京跡右京七条二坊	緑が丘 305–81、306–4、345、240–104、204–106、240–107	鉄骨３階建	５月 25 日	GL–50cm の掘削、盛土のみを確認。
17047	長岡京跡右京八条三坊	下海印寺川向井 5–26　№23	鉄骨２階建	５月 31 日	柱状地盤改良工事済み、GL–30cm の掘削、盛土のみを確認。
17048	長岡京跡右京四条二坊陶器町遺跡	長岡三丁目 402–15 の一部、402–16 の一部	木造２階建	５月 31 日	GL–30cm の掘削、盛土のみを確認。
17050	長岡京跡左京五条一坊	馬場見場走り 20–62	木造２階建	６月１日	GL–35cm の掘削、盛土のみを確認。
17051	長岡京跡右京四条二坊今里北ノ町遺跡	野添二丁目 4–12	木造２階建	６月５日	GL–20 ～ 40cm の掘削、盛土のみを確認。
17052	長岡京跡右京四条二坊	一文橋一丁目 5–187	木造３階建	６月５日	柱状地盤改良工事済み、GL–30cm の掘削、盛土のみを確認。
17053	長岡京跡右京七条三坊	梅が丘一丁目 71–1 の一部、71–5、72–1 の一部、72–5、121 の一部	宅地造成	６月７・８日	敷地南辺の擁壁撤去工事。GL–30cm の掘削、GL–10cm の盛土直下で黄橙色粘質土層の堆積を確認。表土層のすき取り工事、GL–40cm の掘削　盛土のみを確認。
17054	長岡京跡右京八条三坊友岡遺跡、鞆岡廃寺	友岡西畑 417–5	鉄骨３階建	６月８日	GL–40 ～ 90cm の掘削、GL–20cm で部分的に耕作土を確認し、その下は茶褐色礫混じり土層の堆積を確認。
17055	長岡京跡右京七条四坊下海印寺遺跡	奥海印寺森ノ下 26–45	木造２階建	６月 12 日	GL–30cm の掘削、GL–10cm で黄褐色砂礫層の地山を確認。
17056	長岡京跡右京五条二坊	長岡一丁目 222–35 他（3 号地）	木造２階建	６月 12 日	GL–20cm の掘削、盛土のみを確認。

調査次数	遺　跡　名	所　在　地	工事内容	調　査　日	調　査　概　要
17057	長岡京跡右京四条一坊	一文橋二丁目 3–6、5–26	木造２階建	6 月 12 日	GL–55cm の掘削、盛土のみを確認。
17058	長岡京跡左京五条一坊 馬場遺跡	馬場二丁目 210–18	木造２階建	6 月 12 日	既に基礎工事は終了していた。
17059	長岡京跡右京五条一坊	馬場一丁目 7–1	木造２階建	6 月 13・19 日	柱状地盤改良工事では土層観察不可、GL–55cm の掘削、盛土のみを確認。
17060	長岡京跡左京六条一坊	神足ミドロ 18–10 他（9 号地）	木造２階建	6 月 13・15 日	柱状地盤改良と基礎掘削、GL–30cm の掘削、盛土のみを確認。
17061	長岡京跡右京八条三坊	下海印寺川向井 5–12（№16）	木造２階建	6 月 13 日	柱状地盤改良工事済み、GL–40cm の掘削、盛土のみを確認。
17062	長岡京跡右京四条二坊	長岡一丁目 222–70	木造２階建	6 月 13 日	GL–40cm の掘削、盛土のみを確認。
17063	長岡京跡右京六条四坊 下海印寺遺跡	奥海印寺森ノ下 26–46	木造２階建	6 月 14 日	GL–25cm の掘削、盛土のみを確認。
17064	長岡京跡右京四条三坊 今里遺跡	今里五丁目 315–2	木造２階建	6 月 14 日	GL–40cm の掘削、盛土のみを確認。
17065	長岡京跡左京六条一坊	神足ミドロ 18–9 他（8 号地）	木造２階建	6 月 14・15 日	柱状地盤改良工事では土層観察不可、GL–30cm の掘削　盛土のみを確認。
17066	長岡京跡右京八条一坊	神足太田 1–34	木造２階建	6 月 14 日	GL–20cm まで、一部が GL–140cm までの掘削、盛土内に収まる。
17067	長岡京跡右京六条四坊 下海印寺遺跡	奥海印寺岡本 5–17	木造２階建	6 月 16・19 日	柱状地盤改良工事では土層観察不可、GL–40cm の掘削　盛土のみを確認。
17068	長岡京跡右京四条四坊	うぐいす台 163–7	木造２階建	6 月 16・19 日	GL–100cm の掘削、盛土のみを確認。
17069	土山遺跡	金ケ原御所ノ内 5–3 他 4 筆の内一部（2 号地）	木造２階建	6 月 16・21 日	柱状地盤改良と基礎掘削、GL–25cm の掘削、盛土のみを確認。
17070	長岡京跡右京四条二坊	野添一丁目 7–1	木造２階建	6 月 19 日	すでに工事は終了していた。GL–50cm の掘削、盛土のみを確認。
17071	奥海印寺遺跡	奥海印寺東条 12 の一部（16 号地）	木造２階建	6 月 21 日	表層地盤改良工事、GL–90cm の掘削、盛土のみを確認。
17072	長岡京跡関連遺跡 下海印寺遺跡	奥海印寺森ノ下 22 の一部	木造２階建	6 月 21・23 日	部分的な表層地盤改良工事、GL–100cm の掘削　盛土のみを確認。GL–35cm の掘削　掘削底面で暗茶褐色礫混じり土層の堆積を確認。
17073	長岡京跡右京四条四坊 今里遺跡	今里薬師堂 24–92	木造２階建	6 月 22 日	**本文に掲載**
17074	長岡京跡右京三条四坊	粟生梶ケ前 9–11、9–17	木造２階建	6 月 26 日	基礎工事は 6 月 24 日（土）に行われていた。GL–50cm の掘削、GL–35cm で橙褐色粘質土層の地山を確認。
17075	長岡京跡右京七条二坊 開田遺跡	神足三丁目 439–2	木造２階建	6 月 26 日	柱状地盤改良工事済み、基礎工事は 6 月 24 日（土）に行われていた。GL–30cm の掘削、盛土のみを確認。
17076	長岡京跡右京七条二坊	緑が丘 22–4	木造３階建	6 月 26 日	基礎工事は 6 月 24 日（土）に行われていた。GL–45cm の掘削、盛土のみを確認。
17077	長岡京跡右京八条二坊 友岡遺跡	調子一丁目 36–10、71–124	木造２階建	6 月 26 日	基礎工事は 6 月 24 日（土）に行われていた。掘削は無かったようで、砕石を 10 ～ 20cm 積み上げてかさ上げしていた。
17078	長岡京跡右京三条二坊 今里遺跡	今里畔町 13 の一部	木造２階建	6 月 27・28・30 日	柱状地盤改良工事、GL–300cm までの掘削、盛土のみを確認。基礎の掘削はなし、砕石を 10cm ほど積み上げて基礎としたもの。
17079	長岡京跡左京六条一坊 雲宮遺跡	東和苑 17–5	木造２階建	6 月 27 日	GL–15cm の掘削、盛土のみを確認。
17080	長岡京跡関連遺跡 下海印寺遺跡	奥海印寺森ノ下 22 の一部	木造２階建	6 月 28・30 日	GL–40cm の掘削、GL–20cm の耕作土直下で茶褐色礫混じり土層を確認。
17081	長岡京跡左京八条一坊 雲宮遺跡	神足太田 1–38	木造２階建	6 月 29 日	柱状地盤改良工事、GL–450cm までの掘削、工法的に土層観察は不可であるが、盛土内に収まるようである。
17082	土山遺跡	金ケ原御所ノ内 5–3 他 4 筆の内一部（9 号地）	木造２階建	6 月 29 日	柱状地盤改良工事済み、GL–15cm の掘削、盛土のみを確認。

調査次数	遺　跡　名	所　在　地	工事内容	調　査　日	調　査　概　要
17083	土山遺跡	金ケ原御所ノ内 5–3 他 4 筆の内一部（6 号地）	木造２階建	6 月 29 日 7 月 19 日	柱状地盤改良と基礎掘削、GL–200cm の掘削、土層観察は不可。
17084	長岡京跡右京三条二坊今里遺跡	今里更ノ町 16–7	木造２階建	7 月 3・18 日	柱状地盤改良工事では土層観察不可、GL–20cm の掘削　盛土のみを確認。
17085	長岡京跡右京三条三坊今里遺跡	今里三丁目 28–3、28–4	鉄骨２階建	7 月 3 日	柱状地盤改良工事済み、GL–30 ～ 70cm の掘削、盛土のみを確認。
17086	長岡京跡右京七条三坊友岡遺跡	花山三丁目 35–21、35–24	木造２階建	7 月 3 日	GL–140cm の掘削、GL–70cm で暗黄褐色砂礫層の地山を確認。
17087	長岡京跡右京七条四坊	下海印寺西山田 14–7	木造２階建	7 月 3 日	GL–70cm の掘削、盛土のみを確認。
17088	奥海印寺遺跡	奥海印寺城 10–38、10–39、10–40、10–42、10–48、10–49、10–50	鉄骨２階建	7 月 4 日	GL–40cm の掘削、盛土のみを確認。
17089	奥海印寺遺跡	奥海印寺東条 12–21、12–14（13 号地）	木造１階建	7 月 5 日	GL–20cm の掘削、GL–15cm で明黄褐色礫混じり粘土層の地山を確認。
17090	長岡京跡右京四条二坊	長岡一丁目 222–6	木造２階建	7 月 6 日	GL–40cm の掘削、GL–20cm で橙褐色粘質土層の地山を確認。
17091	長岡京跡右京七条三坊友岡遺跡	花山三丁目 35–19、35–23、35–22	木造２階建	7 月 7 日	鋼管打ち込みによる柱状地盤改良工事済み、GL–30cm の掘削、盛土のみを確認。
17092	長岡京跡右京四条四町長法寺七ッ塚古墳群	長法寺北畠 31、24–2	駐車場	7 月 10 日	アスファルトの除去、GL–8cm の掘削、七ッ塚６号墳に影響はなかった。
17094	長岡京跡左京七条一坊雲宮遺跡	神足太田 21–15	木造２階建	7 月 10 日	GL–30cm の掘削、盛土のみを確認。
17095	長岡京跡右京八条三坊	下海印寺川向井 5–9　№2	木造２階建	7 月 10 日	GL–45cm の掘削、盛土のみを確認。
17098	長岡京跡左京七条二坊雲宮遺跡	神足暮角 1–1	鉄骨１階建	7 月 11 日	坪堀の基礎掘削、GL–60cm の掘削、盛土のみを確認。
17099	土山遺跡	金ケ原御所ノ内 5–3 他 4 筆の内一部（7 号地）	木造２階建	7 月 11 日	GL–25cm の掘削、盛土のみを確認。
17100	長岡京跡右京五条二坊	長岡一丁目 209–42 の一部	木造２階建	7 月 12 日	GL–30cm の掘削、盛土のみを確認。
17101	長岡京跡右京三条四坊今里遺跡	今里彦林 12–2	木造２階建	7 月 13 日	GL–30 ～ 80cm の掘削、GL–60cm で耕作土を確認。
17102	長岡京跡右京七条四坊伊賀寺遺跡	下海印寺東条 20–1、20–4 の各一部	木造２階建	7 月 13 日	GL–30cm の掘削、盛土のみを確認。
17103	長岡京跡右京二条二坊	滝ノ町一丁目 115–14	木造２階建	7 月 14 日	既に基礎工事は終了していた。GL–40cm の掘削、盛土の範囲内に収まる。
17104	長岡京跡右京五条四坊東代遺跡	天神三丁目 29–4	木造２階建	7 月 18 日	GL–40cm の掘削、盛土のみを確認。
17105	長岡京跡右京五条三坊	長岡二丁目 3–1	鉄骨１階建	7 月 18・20・26 ～ 28 日 8 月 1 ～ 3 日	GL–100 ～210cm の掘削、GL–140 ～160cm で赤褐色砂礫層の地山を確認。
17106	長岡京跡右京五条三坊東代遺跡	天神四丁目 28–30	木造２階建	7 月 19 日	鋼管による柱状地盤改良工事済み、GL–20cm の掘削　盛土のみを確認。
17107	長岡京跡右京三条四坊井ノ内遺跡	井ノ内朝日寺 23、25–5、27–2、39、粟生川久保 15–2	鉄筋３階建	7月24～26日	GL–160 ～ 210cm の掘削、GL–100cm で黄褐色粘質土層の地山を確認。
17108	長岡京跡右京三条二坊	今里樋ノ尻 19–2	木造２階建	7 月 25 日	GL–20cm の掘削、掘削底面で黄灰色砂質土層の床土を確認。
17109	奥海印寺遺跡	奥海印寺新郷 1、2–4、14–1、15–3、28–1、官有地	宅地造成	7 月 25 日	擁壁の撤去工事、GL–150cm の掘削、盛土のみを確認。
17111	土山遺跡	金ケ原御所ノ内 5–3 他 4 筆の内一部（10 号地）	木造２階建	7 月 28 日	柱状地盤改良工事済み、基礎掘削無し、砕石で約 20cm ほどかさ上げする。
17112	土山遺跡	金ケ原御所ノ内 5–3 他 4 筆の内一部（8 号地）	木造２階建	7 月 28 日	柱状地盤改良工事済み、基礎掘削なし。
17113	長岡京跡右京三条三坊今里遺跡	今里五丁目 140–1　2 号棟	木造２階建	8 月 1 日	柱状地盤改良工事、GL–200cm の掘削、GL–60cm で褐色砂礫層の地山を確認。

調査次数	遺　跡　名	所　在　地	工事内容	調　査　日	調　査　概　要
17114	長岡京跡左京六条一坊	神足ミドロ 18–1 の一部（1 号地）	木造 2 階建	8 月 1 日	柱状地盤改良工事済み、GL–30cm の掘削、盛土のみを確認。
17115	長岡京跡右京三条三坊今里遺跡	今里五丁目 20 番 1 号	校舎増築	8 月 1 日	**本文に掲載**
17117	長岡京跡右京八条一坊南栗ケ塚遺跡	久貝二丁目地内	水路補修	8 月 2・21 日	GL–195cm の掘削、既設管による撹乱を受けていた。
17118	長岡京跡右京三条三坊今里遺跡、井ノ内遺跡	井ノ内坂川 3–25	木造 2 階建	8 月 3 日	柱状地盤改良工事済み、GL–50cm の掘削、掘削底面で耕作土を確認。
17119	長岡京跡右京六条二坊開田遺跡	開田三丁目 101 の一部	木造 2 階建	8 月 3 日	GL–10cm の掘削、盛土のみを確認。
17120	長岡京跡右京六条二坊開田遺跡	開田二丁目 220–3	鉄骨 3 階建	8 月 3 日	擁壁工事、GL–110cm の掘削、盛土の下に橙褐色粘質土層の地山を確認。
17122	長岡京跡右京八条二坊友岡遺跡	調子一丁目 71–43	鉄骨 1 階建	8 月 4 日	GL–40cm の掘削、撹乱を受けている箇所も少なくなかったが、GL–10 ～ 20cm で橙褐色粘質土層ないし砂礫層の地山を確認。
17123	長岡京跡右京三条四坊今里遺跡	今里彦林 9–5	木造 2 階建	8 月 7 日	GL–30cm の掘削、盛土のみを確認。
17124	長岡京跡左京五条二坊雲宮遺跡	馬場六ノ坪 17–9	鉄骨広告板	8 月 8 日	看板の脚穴 2 箇所、GL–110cm の掘削、盛土のみを確認。
17125	長岡京跡右京五条二坊明星野遺跡	開田一丁目 9–7	木造 2 階建	8 月 9 日	GL–20cm の掘削、盛土のみを確認。
17126	長岡京跡右京五条一坊	開田一丁目 28–60	木造 2 階建	8 月 10・17 日	GL–25cm の掘削、盛土のみの確認。
17127	奥海印寺遺跡	高台一丁目 6–21	木造 2 階建	8 月 14 日	GL–40cm の掘削、盛土のみを確認。
17128	長岡京跡右京三条三坊今里遺跡	今里五丁目 140–1（3 号棟）	木造 2 階建	8 月 17 日	既に基礎工事は終了していた。GL–30cm までの掘削、盛土内に収まる。
17129	長岡京跡右京三条三坊今里遺跡	今里五丁目 140–1（1 号棟）	木造 2 階建	8 月 17 日	既に基礎工事は終了していた。GL–20cm までの掘削、盛土内に収まる。
17130	長岡京跡右京八条四坊脇山遺跡	泉が丘 14–2	木造 2 階建	8 月 17 日	大半が GL–25cm、一部で GL–160cm までの掘削、GL–90cm の盛土直下で黄白色粘土層の地山を確認。
17131	長岡京跡右京六条三坊開田城ノ内遺跡、十三遺跡	天神一丁目 613–14	鉄骨 3 階建	8 月 22 日	GL–80cm の掘削、GL–60cm で淡黄白色粘土層の地山を確認。
17132	長岡京跡右京五条一坊	馬場二丁目 407–4	木造 2 階建	8 月 22・28 日	柱状地盤改良工事では土層観察不可、GL–30 ～ 50cm までの掘削、盛土の範囲内に収まる。
17133	長岡京跡右京五条二坊	長岡一丁目 314–22	木造 2 階建	8 月 24 日	GL–35cm の掘削、盛土のみを確認。
17134	長岡京跡右京四条四坊今里遺跡	うぐいす台 140 番	木造 2 階建	8 月 28 日	基礎工事は 8/26（土）に終了していた。大半は GL–20cm、西側が部分的に GL–50cm までの掘削、GL–40cm で黄褐色粘質土層の地山を確認。
17135	長岡京跡右京八条一坊勝龍寺城跡	勝竜寺 41–1 の一部	木造 2 階建	8 月 28・29 日	**本文に掲載**
17136	奥海印寺遺跡	高台一丁目 6–23	木造 2 階建	8 月 28 日	基礎工事は 8/26（土）に終了していた、GL–20cm の掘削、盛土のみを確認。
17137	長岡京跡右京五条三坊	天神五丁目 105、106	宅地造成	8 月 28 日 9 月 1 日	敷地北辺擁壁工事、GL–35cm の掘削、GL–15cm で黄灰色砂質土層を確認。建物基礎工事、GL–70cm の掘削、GL–60cm で耕作土を確認。
17138	長岡京跡右京五条一坊馬場遺跡	馬場二丁目 210–19	木造 2 階建	8 月 29 日	GL–30cm の掘削、盛土のみを確認。
17139	長岡京跡右京四条二坊陶器町遺跡	今里一丁目 1–2	木造 2 階建	8 月 30 日	GL–40cm の掘削、撹乱を受けている箇所もあったが、掘削底面で遺物を含む茶褐色系の粘質土層を確認。
17140	長岡京跡右京七条四坊下海印寺遺跡	下海印寺北条 27–4 の一部	鉄骨 2 階建	8 月 31 日 9 月 1・5 日	表層地盤改良工事、GL–120cm の掘削、GL–100cm で茶褐色粘質土層の堆積を確認。

調査次数	遺　跡　名	所　在　地	工事内容	調　査　日	調　査　概　要
17142	奥海印寺遺跡	高台一丁目 6–19	木造２階建	９月１日	GL–20cm の掘削、盛土のみを確認。
17143	長岡京跡左京五条二坊馬場遺跡	馬場図所 28	鉄筋１階建	９月７・13 日	柱状地盤改良工事では土層観察不可、GL–260cm の掘削、盛土の下に青灰色粘土層の堆積を確認。
17144	長岡京跡右京四条二坊	野添一丁目 39–10	木造２階建	９月８日	GL–20cm、一部で GL–30cm までの掘削、盛土のみを確認。
17145	長岡京跡右京二条二坊	西の京 15–142	鉄骨２階建	９月 11 日	すでに工事は終了していた。GL–40cm、東辺部のみ GL–130cm まで掘削、盛土のみを確認。
17146	長岡京跡右京八条三坊	下海印寺川向井 5–28　№25	木造２階建	９月 11 日	GL–40cm の掘削、盛土のみを確認。
17147	奥海印寺遺跡	高台一丁目 6–22	木造２階建	９月 11 日	GL–20cm の掘削、盛土のみを確認。
17148	長岡京跡右京七条四坊伊賀寺遺跡	下海印寺東条 20–1	木造３階建	９月 13 日	GL–20 ～ 40cm の掘削、盛土のみを確認。
17149	長岡京跡右京七条二坊	緑ヶ丘 305–66	木造３階建	９月 13 日	GL–40cm の掘削、盛土のみを確認。
17150	長岡京跡右京四条四坊長法寺七ッ塚古墳群	長法寺北畠 30–82	木造２階建	９月 15 日	GL–35cm の掘削、GL–35cm で黄灰色砂礫層ないし粘土層の地山を確認。地山は大阪層群と考えられる。
17151	長岡京跡右京七条二坊雲宮遺跡	神足落述 10	再生ドライヤー設置	９月 19 日	GL–110cm の掘削、GL–100cm でオリーブ灰色粘土層の堆積を確認。
17152	長岡京跡右京五条一坊馬場遺跡	馬場二丁目 210–20（３号地）	木造２階建	９月 19 日	GL–55cm の掘削、GK–30cm で灰色シルト層、GL–45cm で浅黄色粘土層の地山を確認。
17153	長岡京跡右京七条三坊	梅が丘一丁目 71–10	木造２階建	９月 19 日	既に基礎工事は終了していた。
17154	長岡京跡右京七条二坊開田遺跡	神足三丁目 803–1	側溝工事	９月 19 日	配管のための掘削。
17155	長岡京跡右京七条二坊	緑が丘 23–11	木造２階建	９月 19 日	GL–30cm の掘削、盛土のみを確認。
17156	長岡京跡右京六条一坊神足遺跡、勝龍寺城跡	東神足一丁目 3–64	木造３階建	９月 19 日	GL–50cm の掘削、表土層の下に撹乱有り。
17157	長岡京跡右京二条三坊上里遺跡	井ノ内上印田 3–12	木造３階建	９月 19 日	柱状地盤改良工事。
17158	長岡京跡右京七条一坊神足遺跡、勝龍寺城跡	東神足二丁目 116–14、116–15 の各一部	宅地造成	９月 20 日	下水管埋設工事、GL–150cm の掘削、掘削底面で耕作土を確認。
17159	長岡京跡右京八条一坊勝龍寺城跡	勝竜寺地内	側溝工事	９月 21・22 日 10 月４・５・10・17・18・25・26	GL–60 ～ 70cm の掘削、盛土のみを確認。
17160	奥海印寺遺跡	高台一丁目 6–20	木造２階建	９月 21 日	柱状地盤改良工事済み、GL–30cm の掘削、盛土のみを確認。
17161	長岡京跡右京五条四坊東代遺跡	天神四丁目 77–14	木造２階建	９月 21 日	GL–40cm の掘削、盛土のみを確認。
17162	長岡京跡右京五条四坊長法寺遺跡	長法寺力池４他	側溝工事	９月 21 日	敷地西辺の側溝布設工事、GL–50cm の掘削、盛土のみを確認。
17163	長岡京跡右京二条三坊井ノ内遺跡	井ノ内南内畑 16 の一部	木造２階建	９月 26 日	GL–10 ～ 20cm の掘削、表土直下の GL–10cm で褐色粘質土層の堆積を確認。表土層は畑の耕作土である。
17164	長岡京跡右京五条二坊明星野遺跡	開田一丁目 206–21	鉄骨３階建	９月 26 日	GL–40cm の掘削、盛土のみを確認。
17165	長岡京跡右京七条一坊	神足二丁目 605–8	木造３階建	９月 26 日	GL–40cm、東辺のみ GL–100cm までの掘削、盛土のみを確認。
17168	長岡京跡右京五条一坊	一文橋二丁目 338 － 7 の一部（１号地）	木造３階建	10 月２日	GL–50cm の掘削、盛土のみを確認。
17169	長岡京跡右京五条一坊	一文橋二丁目 338 － 7 の一部、341–5（２号地）	木造３階建	10 月２日	GL–50cm の掘削、盛土のみを確認。
17172	長岡京跡右京五条四坊東代遺跡	天神三丁目 33–6	木造２階建	10 月３日	GL–40cm の掘削、GL–20cm で明橙褐色粘質土層の堆積層を確認。

調査次数	遺　跡　名	所　在　地	工事内容	調　査　日	調　査　概　要
17173	長岡京跡右京六条一坊神足遺跡、勝龍寺城跡	神足一丁目 302–2、302–10 の一部	鉄骨 3 階建	10 月 3 日	GL–50cm の掘削、GL–40cm で遺構の埋土の可能性がある暗褐色礫混じり土層を確認。
17174	長岡京跡右京五条三坊開田城ノ内遺跡	長岡二丁目 420–3 の一部	木造 3 階建	10 月 3 日	既に基礎工事は終了していた。GL–10 ～ 50cm までの掘削、GL–20cm で橙褐色粘質土層の地山を確認。
17175	長岡京跡右京八条二坊友岡遺跡	調子一丁目 36–8、71–128	木造 2 階建	10 月 5 日	GL–30 ～ 40cm の掘削、GL–30cm で暗橙褐色粘質土層の地山を確認。
17176	長岡京跡右京七条四坊下海印寺遺跡	下海印寺方丸 6–26、8–1 の一部、61 の一部	鉄骨 2 階建	10 月 6 日	既に基礎工事は終了していた。GL–30cm までの掘削、盛土内に収まる。
17177	長岡京跡右京八条三坊	下海印寺川向井 5–25（№22）	木造 2 階建	10 月 10 日	GL–20cm の掘削、盛土のみを確認。
17178	長岡京跡右京三条二坊今里遺跡	今里更ノ町 15–7 の一部（1 号地）	木造 2 階建	10 月 11 日	GL–70cm の掘削、盛土のみを確認。
17179	長岡京跡右京三条二坊今里遺跡	今里更ノ町 15、15–7 の一部（2 号地）	木造 2 階建	10 月 11 日	GL–70cm の掘削、盛土のみを確認。
17180	長岡京跡右京六条三坊開田城ノ内遺跡	天神一丁目 202 の一部	木造 2 階建	10 月 13 日	GL–25cm の掘削、盛土のみを確認。
17181	長岡京跡左京六条一坊雲宮遺跡	神足屋敷 36–1 の一部	木造 2 階建	10 月 16・23・25 日	柱状地盤改良工事では土層観察不可、GL–30cm の掘削、盛土のみを確認。
17182	長岡京跡右京七条二坊	勝竜寺飛尾 1	鉄骨 1 階建	10 月 17 日	坪堀 4 ヶ所、GL–40cm の掘削、盛土のみを確認。
17183	長岡京跡右京二条二坊	滝ノ町二丁目 109–5	木造 2 階建	10 月 18 日	既に基礎工事は終了していた。
17184	長岡京跡右京四条二坊	長岡一丁目 27–11	木造 2 階建	10 月 18 日	既に基礎工事は終了していた。
17185	奥海印寺遺跡	奥海印寺南垣外 9–9、9–13、9–14	宅地造成	10 月 19 日	敷地西辺の段丘崖にあたる、GL–170cm の掘削、掘削底面で黄白色粘土層の地山を確認。
17186	長岡京跡右京六条三坊開田城ノ内遺跡	天神一丁目 17–11	鉄骨 3 階建	10 月 20・30 日	柱状地盤改良工事、GL–150 ～ 240cm までの掘削、深度は不明だが、盛土の下に耕作土、灰色土、黄褐色粘質土の地山を確認。
17188	長岡京跡右京四条二坊	野添一丁目地内	側溝工事	10 月23・30・31 日 11 月 10・15～17・27日 12 月 5・12日	GL–40 ～ 60cm の掘削、盛土のみを確認。
17190	長岡京跡右京七条二坊雲宮遺跡	神足暮角 1–1	鉄骨 1 階建	10 月 24 日	GL–170cm の掘削、盛土のみを確認。
17191	長岡京跡右京二条四坊井ノ内遺跡、井ノ内古墳群	井ノ内広海道 42–3	鉄骨 1 階建	10 月 24 ～ 27 日	**本文に掲載**
17192	長岡京跡右京四条四坊長法寺七ッ塚古墳群	長法寺北畠 19-1、19–3、19–5（一部）、19–9，21–3	鉄骨 2 階建	10 月 26 日	**本文に掲載**
17193	土山遺跡	金ケ原御所ノ内 5–3 他 4 筆の内一部（12 号地）	木造 2 階建	10 月 27 日	GL–20 ～ 70cm の掘削、盛土のみを確認。
17194	長岡京跡右京四条二坊陶器町遺跡	長岡三丁目 104–24 の一部	木造 2 階建	10 月 27 日	既に基礎工事は終了していた。GL–50cm までの掘削、盛土内に収まる。
17195	長岡京跡右京四条二坊今里北ノ町遺跡	野添一丁目 58–5	木造 2 階建	10 月 30 日	GL–20cm の掘削、盛土のみを確認。
17196	長岡京跡左京六条一坊	神足ミドロ 18–6	木造 2 階建	11 月 1・7 日	柱状地盤改良と基礎掘削、GL–30cm までの掘削、盛土のみを確認。
17197	長岡京跡左京六条一坊	神足ミドロ 18–7	木造 2 階建	11 月 2・7 日	柱状地盤改良と基礎掘削、GL–30cm までの掘削、盛土のみを確認。
17198	長岡京跡右京五条一坊神足遺跡	馬場一丁目 53–3 の一部（A 号地）	木造 2 階建	11 月 6 日	擁壁敷設工事、GL–70cm の掘削、盛土のみを確認。
17199	長岡京跡右京五条一坊神足遺跡	馬場一丁目 53–3 の一部（B 号地）	木造 2 階建	11 月 6 日	擁壁敷設工事、GL–70cm の掘削、盛土のみを確認。

調査次数	遺　跡　名	所　在　地	工事内容	調　査　日	調　査　概　要
17200	奥海印寺遺跡	奥海印寺東条 13–1（1 号地）	木造２階建	11 月 6 日	GL–20 ～ 50cm の掘削、盛土のみを確認。
17201	長岡京跡右京七条三坊友岡遺跡	友岡一丁目 231–22	木造２階建	11 月 6 日	既に基礎工事は終了していた。
17202	長岡京跡右京六条一坊神足遺跡、勝龍寺城跡	神足一丁目 126–52	木造３階建	11 月 8 日	GL–20cm の掘削、盛土のみを確認。
17203	長岡京跡右京三条二坊	今里更ノ町 6–33	木造３階建	11 月 9･16 日	柱状地盤改良と基礎掘削、GL–40cm までの掘削、盛土のみを確認。
17204	長岡京跡右京七条三坊友岡遺跡、伊賀寺遺跡	友岡西山 18–2	木造２階建	11 月 9 日	既に基礎工事は終了していた。GL–20cm までの掘削、盛土内に収まるようである。
17205	長岡京跡右京八条三坊	下海印寺川向井 5–23（№20）	木造２階建	11 月 9 日	既に基礎工事は終了していた。GL–50cm までの掘削、盛土内に収まる。
17206	長岡京跡右京三条四坊井ノ内遺跡	井ノ内白海道 8、横ヶ端 18–1	鉄骨２階建	11 月 10・13 ～ 15 日	**本文に掲載**
17207	長岡京跡右京四条二坊	野添一丁目 39–10	木造２階建	11 月 10 日	配管埋設工事、GL–30cm の掘削、盛土内に収まる。
17208	長岡京跡左京六条一坊	東和苑 17–9	鉄骨２階建	11 月 10 日	GL–10 ～ 30cm の掘削、盛土のみを確認。
17209	長岡京跡右京五条四坊	天神三丁目 210–38	宅地造成	11 月 13 日	GL–150cm の掘削、盛土のみを確認。
17210	長岡京跡左京七条一坊	神足太田 1 –35	木造２階建	11 月 13 日	GL–70cm の掘削、盛土のみを確認。
17212	長岡京跡右京五条四坊	長法寺川原谷 24–1	木造２階建	11 月 14 日	GL–30cm の掘削、盛土のみを確認。
17213	長岡京跡右京八条二坊友岡遺跡	調子一丁目 28–5	鉄骨２階建	11 月 15 日	**本文に掲載**
17214	長岡京跡右京八条二坊	調子一丁目 17–1	鉄骨３階建	11 月 17 日	GL–40cm、一部 GL–90cm までの掘削、盛土のみを確認。
17215	長岡京跡右京九条三坊	調子二丁目 51	鉄骨３階建	11 月 17 日	GL–25cm、一部 GL–50cm までの掘削、盛土のみを確認。
17216	長岡京跡左京六条二坊雲宮遺跡	神足神田 5–1、4–21	木造２階建	11 月 20 日	GL–50cm の掘削、盛土のみを確認。
17217	長岡京跡右京七条四坊	梅ヶ丘三丁目 68	鉄骨２階建	11 月 20 日	GL–440cm の掘削、盛土以下、旧表土、竹薮の客土と続き、GL–310cm で大阪層群の地山を確認。
17218	奥海印寺遺跡	奥海印寺南垣外 9–14 地内	電柱設置	11 月 21 日	電柱と控えの２箇所掘削、電柱は GL–250cm、控えは GL–170cm の掘削、ともに盛土のみを確認。
17219	長岡京跡右京七条三坊友岡遺跡	友岡一丁目 108–8	木造２階建	11月 24･27日	GL–30cm の掘削、盛土のみを確認。
17220	長岡京跡右京三条三坊今里遺跡	今里五丁目 118–1 地内	電柱支線設置	11 月 24 日	11/23（祝）に掘削、埋め戻しのみを確認。
17222	長岡京跡右京五条四坊東代遺跡	天神四丁目 77–54	木造２階建	11 月 27 日	敷地東辺擁壁工事、11/25（土）に GL–140cm まで掘削済み、盛土内に収まる。
17223	長岡京跡右京五条二坊開田古墳群	開田一丁目 115–8 の一部	鉄骨２階建	11月27･30日	柱状地盤改良工事では土層観察不可、GL–30cm の掘削、盛土のみを確認。
17224	長岡京域外	高台一丁目 10–5	木造２階建	11 月 29 日 12 月 5 日	柱状地盤改良と基礎掘削、GL–200cm までの掘削、GL–100cm で大阪層群の地山を確認。
17225	長岡京跡右京五条一坊神足遺跡、開田古墳群	馬場一丁目 15–3	木造３階建	12 月 1 日	GL–40cm の掘削、GL–25cm で黄褐色砂質土層を確認。
17226	長岡京跡右京五条一坊神足遺跡	馬場一丁目 53–3 の一部（C 号地）	木造２階建	12 月 1 日	既に基礎工事は終了していた、GL–20cm までの掘削、盛土のみを確認。
17227	長岡京跡右京四条三坊陶器町遺跡	長岡三丁目 19–13	木造２階建	12 月 4 日	鋼管杭により柱状地盤改良工事、GL–300cm まで打ち込み、土層観察不可。
17228	長岡京跡右京四条二坊	一文橋一丁目 5–34	木造３階建	12 月 4 日	GL–30cm の掘削、盛土のみを確認。

調査次数	遺　跡　名	所　在　地	工事内容	調　査　日	調　査　概　要
17229	長岡京跡右京五条一坊	一文橋一丁目 21–8、21–25	木造２階建	12 月 4 日	GL–50cm の掘削、盛土のみを確認。
17230	長岡京跡右京八条四坊	泉が丘 12–11 の一部	鉄骨２階建	12 月 4・13 日	柱状地盤改良と基礎掘削、GL–40cm の掘削、盛土のみを確認。
17231	長岡京跡右京八条四坊	泉が丘 12–11 の一部	鉄骨２階建	12 月 5・11 日	柱状地盤改良工事と基礎掘削、GL–50cm の掘削、掘削底面で黄橙色礫混じり土層の地山を確認。
17233	長岡京跡右京三条二坊今里遺跡	今里畔町 13–20	木造２階建	12 月 7 日	柱状地盤改良工事、GL–200cm までの掘削、盛土内に収まる。
17234	長岡京跡右京七条二坊開田遺跡	神足三丁目 102–1	鉄骨３階建	12 月 7 日	GL–50 ～ 80cm の掘削、盛土のみを確認。
17235	長岡京跡右京八条四坊	泉が丘 12–11 の一部	鉄骨２階建	12 月 7・13 日	柱状地盤改良と基礎掘削、GL–40cm までの掘削、盛土内に収まる。
17237	長岡京跡右京三条二坊今里遺跡	今里畔町 13–23	木造２階建	12 月 8 日	柱状地盤改良工事、GL–300cm の掘削、盛土の下に暗青灰色系の粘土層を確認したが、層の厚さは不明。
17238	長岡京跡右京八条一坊	城の里 28–13	木造３階建	12 月 8 日	GL–60cm の掘削、盛土のみを確認。
17240	長岡京跡右京八条一坊	神足太田 1–40	木造２階建	12 月 11 日	柱状地盤改良工事、GL–100 ～ 550cm までの掘削、工法的に断面観察は不可。
17242	長岡京跡左京六条一坊雲宮遺跡	東和苑 6–10	木造２階建	12 月 12 日	GL–30cm、一部 60cm の掘削、盛土のみを確認。
17244	長岡京跡右京七条三坊	梅が丘一丁目 71–3、122–2、72–13 の一部	木造２階建	12 月 14 日	GL–30cm、盛土のみを確認。
17245	長岡京跡左京六条一坊	神足ミドロ 18–4	木造２階建	12月15・20日	柱状地盤改良工事では土層観察不可、GL–20cm の掘削、盛土のみを確認。
17246	長岡京跡右京七条四坊下海印寺遺跡	梅が丘三丁目 104	木造２階建	12 月15・日	GL–40cm の掘削、GL–20cm で淡黄白色粘土の地山を確認。
17247	長岡京跡右京六条二坊開田遺跡	神足三丁目 305、306–2、306–5、605	木造２階建	12 月 15 日	GL–30cm、盛土のみを確認。
17248	長岡京跡右京七条二坊	緑が丘 419–91、429–6	鉄骨３階建	12 月 18 日	基礎工事は 12/16（土）に行われた。GL–40cm の掘削　盛土のみを確認。
17249	長岡京跡右京七条一坊勝龍寺城跡	勝竜寺 103–3	木造２階建	12 月 19 日	GL–40cm の掘削、盛土のみを確認。
17250	長岡京跡右京五条二坊開田古墳群	開田一丁目 503–1 他 12 筆	鉄骨２階建	12 月 20 日	柱状地盤改良工事、土層観察不可。
17251	長岡京跡右京七条三坊友岡遺跡	花山三丁目 48–1	鉄骨１階建	12 月 20・21・25・26 日	GL–90 ～ 140cm の掘削、大部分は盛土内に収まるが、部分的に GL–30cm で橙褐色粘質土層の地山を確認。
17252	長岡京跡右京五条四坊長法寺遺跡	長法寺力池 4–5	木造２階建	12 月 21 日	柱状地盤改良工事済み、GL–50cm の掘削、盛土のみを確認。
17253	長岡京跡右京二条二坊	滝ノ町一丁目 111–12	木造３階建	12 月 25 日	GL–40cm の掘削、GL–40cm で淡褐色シルト層を確認。
17254	長岡京跡右京七条四坊下海印寺遺跡	下海印寺北条 27–13	鉄骨２階建	12 月 25 日	柱状地盤改良工事、GL–260cm までの掘削、工法的に土層観察不可。
17255	長岡京跡右京七条四坊下海印寺遺跡	下海印寺北条 35–3	鉄骨２階建	12月25・26日	表層地盤改良工事、GL–110cm までの掘削、GL–100cm で茶灰色礫混じり土層、掘削底面で黄褐色砂礫層の地山を確認。
17256	長岡京跡右京四条二坊	長岡一丁目 209–40	木造２階建	12 月 26 日	すでに基礎工事は終了していた、GL–30cm までの掘削、盛土内に収まる。

付表−6　報告書抄録

ふ り が な	ながおかきょうしぶんかざいちょうさほうこくしょ
書　　名	長岡京市文化財調査報告書
副 書 名	
シリーズ名	長岡京市文化財調査報告書
シリーズ番号	第 71 冊
編 著 者 名	大髙義寛、山本輝雄
編 集 機 関	公益財団法人 長岡京市埋蔵文化財センター
所 在 地	〒617−0853　京都府長岡京市奥海印寺東条 10 番地の 1

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
今里遺跡 乙訓寺 長岡京跡右京 四条三坊八町 (三条大路)	長岡京市 今里三丁目 14−7	26209	32 28 107	34°55′57″	135°41′33″	20170925 〜 20171124	326㎡	範囲確認
今里遺跡 長岡京跡右京 三条三坊十四町	長岡京市 今里五丁目 140−1	26209	32 107	34°56′01″	135°41′21″	20170502	−	宅地造成
長岡京跡右京 四条二坊五町	長岡京市 長岡一丁目 41−13	26209	107	34°55′43″	135°41′53″	20170523 ・29	−	個人住宅
今里遺跡 長岡京跡右京 四条四坊一町	長岡京市 今里薬師堂 24−92	26209	32 107	34°55′53″	135°41′17″	20170622	−	個人住宅
今里遺跡 長岡京跡右京 三条三坊十一町	長岡京市 今里五丁目 20−1	26209	32 107	34°56′03″	135°41′26″	20170801	−	学校
勝龍寺城跡 長岡京跡右京 七条一坊五町	長岡京市 勝竜寺 41−1 の一部	26209	84−1 107	34°54′49″	135°42′11″	20170828 ・29	−	個人住宅
井ノ内遺跡 井ノ内古墳群 長岡京跡右京 二条四坊六町	長岡京市 井ノ内広海道 42−3	26209	15 9 107	34°56′20″	135°41′12″	20171024 〜 20171027	−	福祉施設
長法寺七ッ塚古墳群 長岡京跡右京 四条四坊十六町	長岡京市 長法寺北畠 19−1・3・5・9, 21−3	26209	25 107	34°55′55″	135°41′01″	20171026	−	集合住宅
井ノ内遺跡 長岡京跡右京 三条四坊一町	長岡京市井ノ内 白海道 8, 横ケ端 18−1	26209	15 107	34°56′14″	135°41′13″	20171110 ・13・15	−	病院
友岡遺跡 長岡京跡右京 八条二坊十四町	長岡京市 調子一丁目 28−5	26209	97 107	34°55′01″	135°41′47″	20171115	−	工場

※ 緯度、経度の測点は調査区の中心で、国土座標の旧座標系を使用している。

遺　跡　名	種　別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
今里遺跡 乙訓寺 長岡京跡 (右京第1165次)	集　落 寺　院 都　城	旧石器～中世 中世・近世 平安時代	溝４条、掘立柱建物１棟、井戸２基、小穴	土師器、須恵器、瓦器、瓦（軒丸瓦・軒平瓦・丸瓦･平瓦)、陶器、磁器、円盤状土製品	
今里遺跡 長岡京跡 (第17024次)	集　落 都　城	旧石器～中世 平安時代	小穴を２基	土師器、須恵器	
長岡京跡 (第17044次)	都　城	平安時代	土坑	土師器	
今里遺跡 長岡京跡 (第17073次)	集　落 都　城	旧石器～中世 平安時代	小穴を１基	陶器	
今里遺跡 長岡京跡 (第17115次)	集　落 都　城	旧石器～中世 平安時代	溝状遺構	土師器、須恵器	
勝龍寺城跡 長岡京跡 (第17135次)	城　跡 都　城	中世 平安時代	特になし	土師器、瓦器、陶器	
井ノ内遺跡 井ノ内古墳群 長岡京跡 (第17191次)	集　落 古墳群 都　城	古墳～中世 古墳時代 平安時代	土坑	土師器、須恵器、平瓦	
長法寺七ッ塚古墳群 長岡京跡 (第17192次)	古墳群 都　城	古墳時代 平安時代	小穴	なし	
井ノ内遺跡 長岡京跡 (第17206次)	集　落 都　城	古墳～中世 平安時代	溝、小穴３基	土師器	
友岡遺跡 長岡京跡 (第17213次)	集　落 都　城	縄文～中世 平安時代	なし	土師器、須恵器	

図　　版

調査区全景（北から）

乙訓寺第 24 次調査

（1）南拡張区全景（西から）

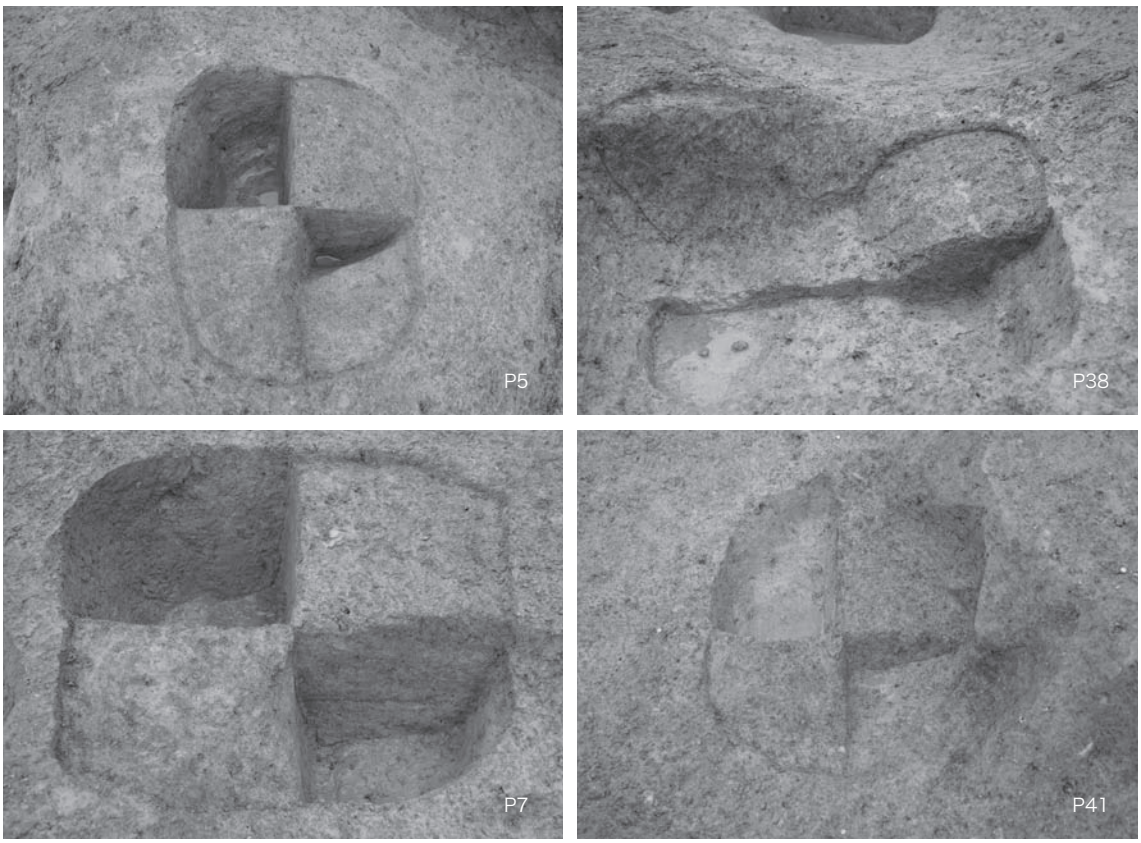
（2）北拡張区全景（西から）

（1）溝 SD25 全景（北西から）

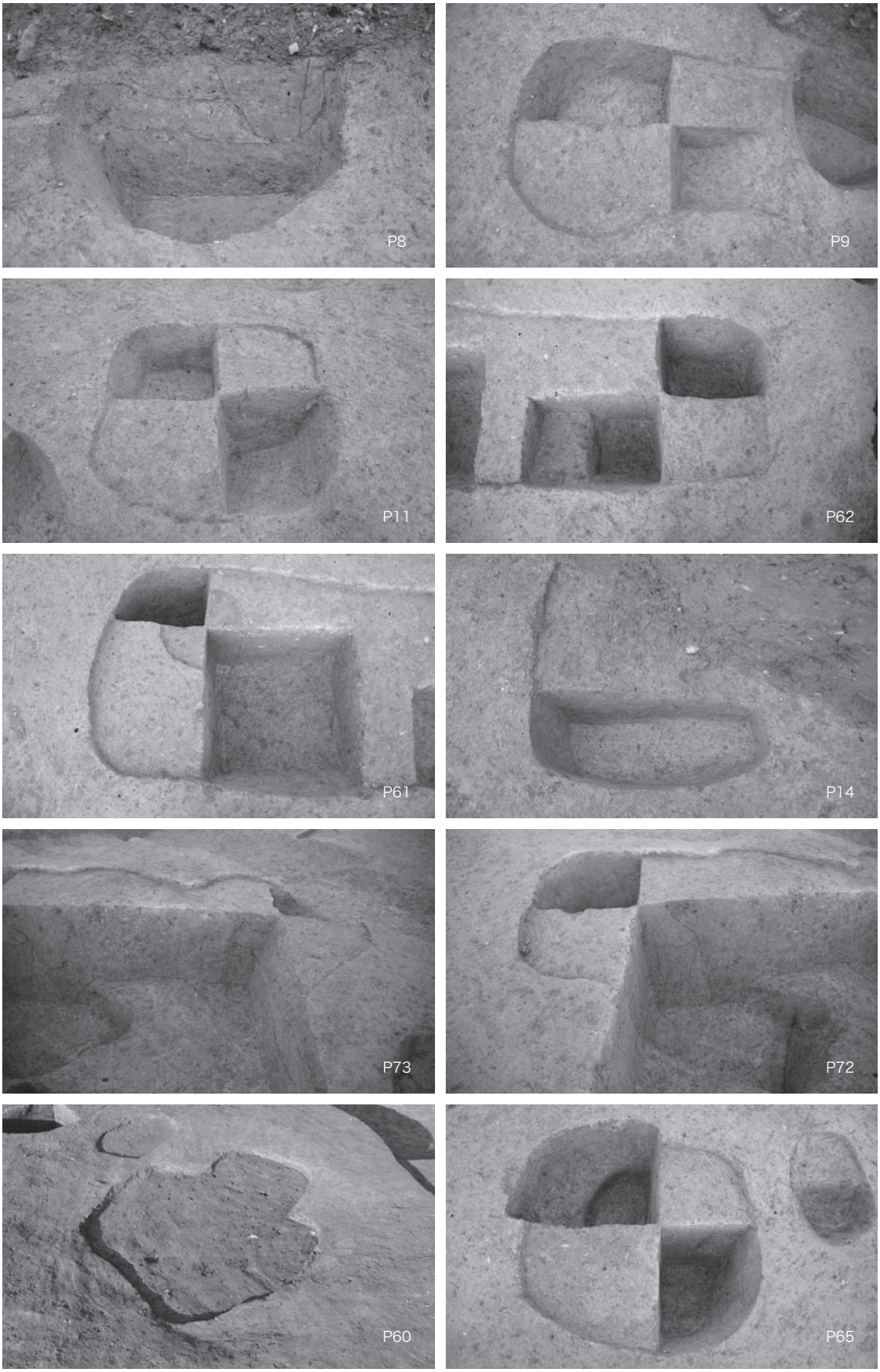
（2）溝 SD25 遺物出土状況（北西から）

乙訓寺第 24 次調査

（1）掘立柱建物 SB51 全景（北西から）



（2）掘立柱建物 SB51 柱穴– 1 （P5・7・38 –南西から、P41 –西から）



掘立柱建物 SB51 柱穴－２（P8 －西から、P9・11・14・60 ～ 62・65・72・73 －南西から）

乙訓寺第 24 次調査

（1）井戸 SE47 土層堆積状況（西から）

（2）井戸 SE47 完掘状況（西から）

（1）井戸 SE68 土層堆積状況（北から）

（2）井戸 SE68 半截状況（北から）

乙訓寺第 24 次調査

（1）溝 SD01 検出状況（北から）

（2）溝 SD01 完掘状況（北から）

（1）溝 SD01 遺物出土状況（西から）

（2）溝 SD01・調査区西壁南端土層堆積状況（東から）

乙訓寺第 24 次調査

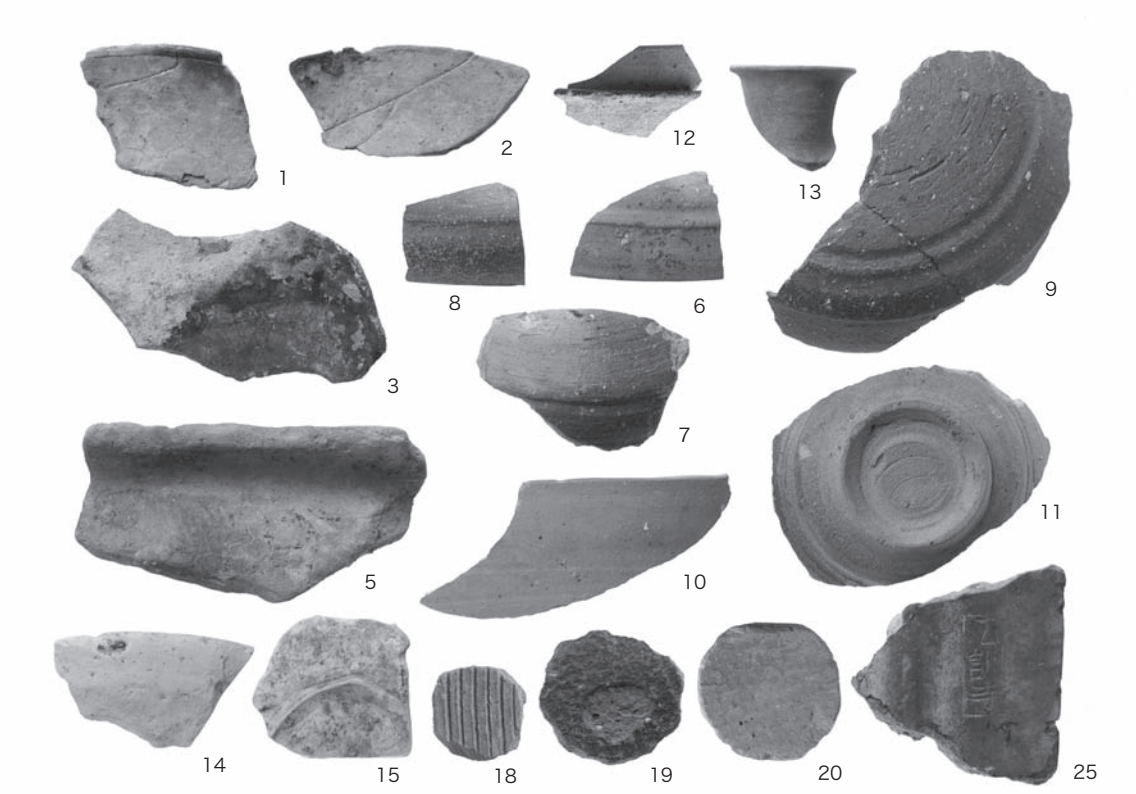
（1）溝 SD04 土層堆積状況（東から）

（2）溝 SD04 完掘状況（南東から）

（1）溝 SD53・落ち込み SX66 セクション断面（南から）

（2）溝 SD53 完掘状況（南から）

乙訓寺第 24 次調査



出土遺物

長岡京市文化財調査報告書 第 71 冊

平成 30（2018）年 3 月 26 日　発行

編　　集　公益財団法人 長岡京市埋蔵文化財センター
〒 617 – 0853　京都府長岡京市奥海印寺東条 10 番地の 1
電話　075 – 955 – 3622　　FAX　075 – 951 – 0427

発　　行　長岡京市教育委員会
〒 617 – 0851　京都府長岡京市開田一丁目 1 – 1
電話　075 – 951 – 2121（代）

印　　刷　山代印刷株式会社
〒 602 – 0062　京都府京都市上京区寺之内町通小川西入
宝鏡院東町 588 番地
電話　075 – 441 – 8177　　FAX　075 – 441 – 8179